（第二府）（原謄配達）（明治卅一年七月九日第三種郵便物認可）昭和十年一月二十三日

臺灣新民 日刊

一月二十二日 夕刊 一部貳錢 定價一個月金壹圓

編輯兼發行人 若園野間

印刷人 目下四町榮町北通 所 臺灣日日新報社

（型番號碼）

本口看板

合名會社 木山機記本店
大阪市住吉區アベノ筋四丁目
電話代表天王寺六五番

第六十七議會 けふ政戰の幕開く

貴族院は傍聽席滿員

美濃部博士の質問に人氣を呼んで

【東京二十二日發】第六十七議會開會政戰の本舞臺の幕開かされる廿二日は衆貴兩院ともに開會であるが絶好の快晴である、この日貴族院では首相の施政方針演說があり、又北滿事變勃發以來、同事件の人氣を呼んでゐる美濃部博士が大臣病氣缺席のため代理國務大臣の資格で登壇、不侵略の原則に基く信義外交の新提唱を行ふとあつて傍聽席は朝から滿員の盛況を呈し、一般の注目を浴びてゐる、尚衆議院では午後一時から開會、岡田首相の施政方針演說があり、又北滿事變に關する政府の聲明に對し質問演說を試むべしと云ふ報道が一般大衆に向つて一大衝動を與へたと見えてこの傍聽券獲得に朝から貴族院傍聽席に詰めかけた者は實に數千名に達し、殊に衆議院傍聽券は押すな押すなの大盛況であつた、然し時間の都合上美濃部博士の質問演說は翌日に廻されたためこの質問演說を目當てに來た傍聽者は大いに失望した

第一陣の坂本男が 燃料國策を強調

一朝有事の際は如何するかと 方針如何

【東京二十二日發】休會明第一日二十二日の貴族院本會議では大藏省事件に對する人權擁護問題に關し美濃部理吉博士が起ち關心を集めてゐる、午前十時十三分開會、議長岡田貴族院議長に著席に引續き二日會に入り、曾つて大藏大臣を最後に入閣を辭退してゐる坂本俊篤男（公正會）が登壇、我國の石油の年額は大正十二年を最高として年々下り坂を示し、これに反し需要は逐增し今日國內の產出額は僅かに需要の一割內外に過ぎない、從つて石油の大部分は輸入に俟つの外なく、之が爲め國防上經濟上に重大なる關係を有するに拘らず、石油專賣法の制定を見ざるは如何なる理由に基くものかと質問した

坂本俊篤男

【東京二十二日發】第六十七議會開會政戰の本舞臺の幕開かされる廿二日は衆貴兩院ともに開會であるが絶好の快晴である、この日貴族院では首相の施政方針演說があり、又北滿事變勃發以來、同事件の人氣を呼んでゐる美濃部博士が大藏大臣病氣缺席のため代理國務大臣の資格で登壇、不侵略の原則に基く信義外交の新提唱を行ふとあつて傍聽席は朝から滿員の盛況を呈し、一般の注目を浴びてゐる、尚衆議院では午後一時から開會、岡田首相の施政方針演說があり、又北滿事變に關する政府の聲明に對し質問演說を試むべしと云ふ報道が一般大衆に向つて一大衝動を與へたと見えてこの傍聽券獲得に朝から貴族院傍聽席に詰めかけた者は實に數千名に達し、殊に衆議院傍聽券は押すな押すなの大盛況であつた、然し時間の都合上美濃部博士の質問演說は翌日に廻されたためこの質問演說を目當てに來た傍聽者は大いに失望した

第一陣の坂本男が 燃料國策を強調

一朝有事の際は如何するかと 方針如何

【東京二十二日發】第六十七議會開會政戰の本舞臺の幕開かされる廿二日は衆貴兩院ともに開會であるが絶好の快晴である、この日貴族院では首相の施政方針演說があり、又北滿事變勃發以來、同事件の人氣を呼んでゐる美濃部博士が大藏大臣病氣缺席のため代理國務大臣の資格で登壇、不侵略の原則に基く信義外交の新提唱を行ふとあつて傍聽席は朝から滿員の盛況を呈し、一般の注目を浴びてゐる、尚衆議院では午後一時から開會、岡田首相の施政方針演說があり、又北滿事變に關する政府の聲明に對し質問演說を試むべしと云ふ報道が一般大衆に向つて一大衝動を與へたと見えてこの傍聽券獲得に朝から貴族院傍聽席に詰めかけた者は實に數千名に達し、殊に衆議院傍聽券は押すな押すなの大盛況であつた、然し時間の都合上美濃部博士の質問演說は翌日に廻されたためこの質問演說を目當てに來た傍聽者は大いに失望した

廣田外相の……外交演說要旨

【東京二十二日發】二十二日午前十二時貴族院においていなしたる廣田外相の外交演說要旨左の如し

一、滿洲國における今や既に確固の基礎を完成しましてや今後の發達に就ては我日滿兩國民の融和協力に俟つものが多いと思ひますが、就中經濟方面においては益々有無相通じ共存共榮の實を擧げんことを期待する次第であります

一、太平洋ワシントンにおいて署名せられた海軍軍備制限條約は今や右方針と云はれざるものある當帝國政府は同條約の規定に從ひ昨年十二月二十九日を以つてアメリカ政府にその廢止の意思を通告したのであります、固より帝國政府はこれに依つて進んで海軍軍備制限の精神が如き國際平和の維持に關する根本精神なるに於ては毫も變更なきものであります

一、ロンドン會議に於ける我代表の態度は我國の安全保障上必要にして且つ十分なる兵力を保有するの決意を表明したるものであります

一、我國は從來より國際聯盟の精神に則り國際平和の維持に關し常に誠意を以つて協力し來つたのであります、我國は聯盟の理事國たると否とを問はず、聯盟の目的たる國際平和の維持に關し今後も亦誠意を以つて協力する所存であ

臺灣日日新報　第一萬二千五百四號　(第三種郵便物認可)

生徒青訓生の教練を御視閲

寫眞下は芭蕉検査所にお成の李王殿下

晴れ渡つた阿里山へ
李王殿下けふお登り
沿線の風物を賞でさせられつつ

【嘉義電話】御來臺以來連日御多忙なる御旅程に拘らせられず、數かの御疲勞の御見色なく、御健康頗る良好にわたらせられ午前七時四十分嘉義御宿所御發

＝堵列＝

の奉迎者に御會釋を賜はりつつ同七時四十六分嘉義御着、堀田交通局鐵道部長の御先導にて阿里山線に御乘車同七時五十分御發二路阿里山に向はせられた殿下には車中にて佐治營林所長代理より森田營林所長の八名を通譯官として紹介せられ御一驚あらせられ車窓に展開する風物を賞でさせられつつ御列車は北門、驛、鹿麻產の午驛を通過、同八時四十二分竹崎驛着、これより鐵路

＝山線＝

に移るを以て特殊構造を有するシェー式機關車と取換へ、最後部一連續せられ、同八時四十四分同驛御發、山は淸秀の趣味に從つて御速度を加へ、木屬驛、樟腦驛を通過、他に其の比を見ざる偉觀なる獨立山スパイラル線に差掛かる、御乘列車は三度廻回し一氣に高低差二百餘米を上昇し、此の間四周の雄大なる山容を眺め乍ら頂上に達した、標高實に七百六十米、列車はそこより眺に鹿滯林を抜け腰滯林區内に入り、神代杉を御覽あり、なほも御興深げに拜せられ同十時十八分同驛御發新たに獨立山及西方通に嘉義本野先導にて御休憩所に入らせられ御晝餐あらせられた

＝御耳＝

を傾けさせられつつ獨立山及西方通に嘉義本野先導にて御休憩所に入らせられ御晝餐あらせられた

阿里山番人も奉迎
二時過ぎ阿里山驛に御著

【嘉義電話】遞信部特派の觀測船淡岡、八重山兩艦は、御召艦「鳥羽」より右方海上にトラヤ型艦を御護衛として午前七時四十分嘉義御宿所御發

＝堵列＝

の奉迎者に御會釋を賜はりつつ同七時四十六分嘉義御着、堀田交通局鐵道部長の御先導にて阿里山線に御乘車同七時五十分御發二路阿里山に向はせられた殿下には車中にて佐治營林所長代理より森田營林所長の八名を通譯官として紹介せられ御一驚あらせられ車窓に展開する風物を賞でさせられつつ御列車は北門、驛、鹿麻產の午驛を通過、同八時四十二分竹崎驛着、これより鐵路

＝山線＝

に移るを以て特殊構造を有するシェー式機關車と取換へ、最後部一連續せられ、同八時四十四分同驛御發、山は淸秀の趣味に從つて御速度を加へ、木屬驛、樟腦驛を通過、他に其の比を見ざる偉觀なる獨立山スパイラル線に差掛かる、御乘列車は三度廻回し一氣に高低差二百餘米を上昇し、此の間四周の雄大なる山容を眺め乍ら頂上に達した、標高實に七百六十米、列車はそこより眺に鹿滯林

＝御耳＝

を傾けさせられつつ獨立山及西方通に嘉義本野先導にて御休憩所に入らせられ御晝餐あらせられた

練習艦隊來る
來月十九日基隆へ

【基隆電話】遞信部特派の觀測船淡岡、八重山兩艦は、御召艦「鳥羽」より右方海上にトラヤ型艦を御護衛として午前七時四十分嘉義御宿所御發

＝堵列＝

の奉迎者に御會釋を賜はりつつ同七時四十六分嘉義御着、堀田交通局鐵道部長の御先導にて阿里山線に御乘車同七時五十分御發二路阿里山に向はせられた殿下には車中にて佐治營林所長代理より森田營林所長の八名を通譯官として紹介せられ御一驚あらせられ車窓に展開する風物を賞でさせられつつ御列車は北門、驛、鹿麻產の午驛を通過、同八時四十二分竹崎驛着、これより鐵路

＝山線＝

に移るを以て特殊構造を有するシェー式機關車と取換へ、最後部一連續せられ、同八時四十四分同驛御發、山は淸秀の趣味に從つて御速度を加へ、木屬驛、樟腦驛を通過、他に其の比を見ざる偉觀なる獨立山スパイラル線に差掛かる、御乘列車は三度廻回し一氣に高低差二百餘米を上昇し、此の間四周の雄大なる山容を眺め乍ら頂上に達した、標高實に七百六十米、列車はそこより眺に鹿滯林

＝御耳＝

を傾けさせられつつ獨立山及西方通に嘉義本野先導にて御休憩所に入らせられ御晝餐あらせられた

第二艦隊旗艦、廿七日基隆入港
三驅逐艦も同時に

【基隆電話】遞信部特派の觀測船淡岡、八重山兩艦は、御召艦「鳥羽」より右方海上にトラヤ型艦を御護衛として午前七時四十分嘉義御宿所御發

＝堵列＝

の奉迎者に御會釋を賜はりつつ同七時四十六分嘉義御着、堀田交通局鐵道部長の御先導にて阿里山線に御乘車同七時五十分御發二路阿里山に向はせられた殿下には車中にて佐治營林所長代理より森田營林所長の八名を通譯官として紹介せられ御一驚あらせられ車窓に展開する風物を賞でさせられつつ御列車は北門、驛、鹿麻產の午驛を通過、同八時四十二分竹崎驛着、これより鐵路

＝山線＝

に移るを以て特殊構造を有するシェー式機關車と取換へ、最後部一連續せられ、同八時四十四分同驛御發、山は淸秀の趣味に從つて御速度を加へ、木屬驛、樟腦驛を通過、他に其の比を見ざる偉觀なる獨立山スパイラル線に差掛かる、御乘列車は三度廻回し一氣に高低差二百餘米を上昇し、此の間四周の雄大なる山容を眺め乍ら頂上に達した、標高實に七百六十米、列車はそこより眺に鹿滯林

＝御耳＝

を傾けさせられつつ獨立山及西方通に嘉義本野先導にて御休憩所に入らせられ御晝餐あらせられた

訪支の旅より
臺顯榮氏歸京
要人との會談感想

【東京二十一日發本社支局特電】貴族院議員臺顯榮氏は兩國田外相の了解を得て支那、滿洲方面の旅行を計畫し去年十二月七日東京發、中華民國の主要人物紹介氏並びに行政院長汪精衛氏等はじめ南京其他の銀行財閥、上海、北平方面の主要人物多數を一々訪問、中華民國に對する日本の眞の意圖を說明了解を得て二週間朝鮮したが歸京した

旅行中民國各方面で非常な歡待を受けたことを深く感謝する、自分が支那旅行を思ひ立つたのは云ふ迄もなく現時世界の大勢より見て日支兩國が一大革新の要ありとみたからである、兩介石氏をはじめ多數の要人を應訪し到るところで自分は東洋に於ける日本の使命と日本存在の眞の意義を說いた、日本は決して國境の國ではない、日本はその隣邦と協力もつて相提携し互に共存共榮の實を擧げたいと念願してゐる、これが日本の眞意であるから、自國の爲めにも又相手國の爲めにも日本は何時でも相談に應ずる用意がある、支那は豫り歐米に賴りすぎてゐる感がある、英米に於ては支那を物品の市場としか考へてゐないではないか、この點よく考慮しなければならぬと感ずる、たが何れもよく了解してくれた、而して若干の如くならば現在日本は民衆に汲々としてゐる如き觀察に非ず、又歐羅の情況如何と云ふ質問からみつたに對し自分は日本の民衆は全くその政府のために非ずと答へ百日本そのものの防衛ばかりではない、東亞の安寧を保持するは日本の使命なりと信ぜしをもつて從つて東亞各國のための防衛に自國の國防を實行してゐる、なほ滿洲國の現狀を日本の領有以前と比較すると全く地の差がある、行年の滿洲住民は俺が數百萬の民衆のもとに樂園、樂土教育その他諸般の施設が完全のため常に安心し待ち得なかつたが今は日本皇室より一視同仁の取扱ひを受け滿民は喜々としてゐる、滿洲は年々一億圓を突破し諸般の施設は滿洲ながら滿洲せられ、全く樂土の地となつたことを何れも認めてゐる旨あり のまま話したところ阿介石氏をはじめ何れも熱心に之を聽き日本の滿洲の存するところをよく了解してくれました

未だ說明がないから何んとも分らぬが、元來ヒースブラウによる深耕作業は深層破土非常に效果があるのは勿論であるが、一部無智な民衆の間に所謂かいふことは甚だしく、即ちに農文部等を相手取つて訴訟を提起した例もあるが、よく當局から當事人に對し右の效果を說得した所が大いに諒として告訴を取下げた、今度の事件も一部反對者がまぎかけてそれが極道に入つた事だらうと想像してゐるが、一般部落の拘引狀で土地の有力者を檢束することについては何か相當の理由があるとおもふ、勿論相當の理由があつて拘引狀を發することは差支ないが實際の力で一般利害關係を保護するやうに考へる向もあるしいかこれは非常な誤解である

部落民多數が
鎌を持つて妨害
子供二十餘名も之に加つて
◇……深耕問題の眞相

【嘉南電話】嘉南州新營郡下の官有天田深耕問題の眞相を調査するに去る十二日午前十時頃新營郡役所の新築六五八保吉次郎ほか同部落民壹百二十五、一一六、一一七の個に於てヒースブラウによる深耕作業を開始せんとした際同庄部落民十數名に供等二十餘名が手に手に鎌を携へて襲來しヒースブラウの作業を妨害し如く或は之を奪ひ去つたが同庄總督府警部補及び石田巡査の直に現場に急行せるに大人十數名、子供二十餘名が手に鎌を持つて妨害してゐるのでこれ等の住民名を取調べんとした所、數名の子を散らす

ROHTO

ズマタイズマシ

正しき高級眼科藥

ロート目藥

井上獨逸博士處方
中尾藥學博士指導

結膜炎

結膜炎といふのは結膜、即ち眼瞼の裏及び眼球を蔽うてゐる結膜に起る炎症で、俗にはやり目、やに目、はれ目、ちら目等と呼ばれてゐます。原因はK・W氏菌等の微菌、鹿疫、強烈な光線などで、その症狀は輕い内は結膜の充血、眼脂の分泌、眼瞼の腫脹等ですがそれが重くなると、充血や腫れがひどく時には刺す様な痛みがあり、又明るい光線に對してはまぶしくて眼があけられない樣になります。この結膜炎の療法としては毎朝洗面の時清水でよく眼を洗ひ、眼脂などの不潔なものを拭きとりその後でロート目藥を一日、二三回點眼するのが有効です。ロート目藥はその殺菌作用で病原菌を殺し、消炎作用によつて炎症を散らし、收斂作用、鎭痛作用で充血や腫れを引かせ痛みを止める機能が綜合的に有効な働きをするのであります。

角膜炎

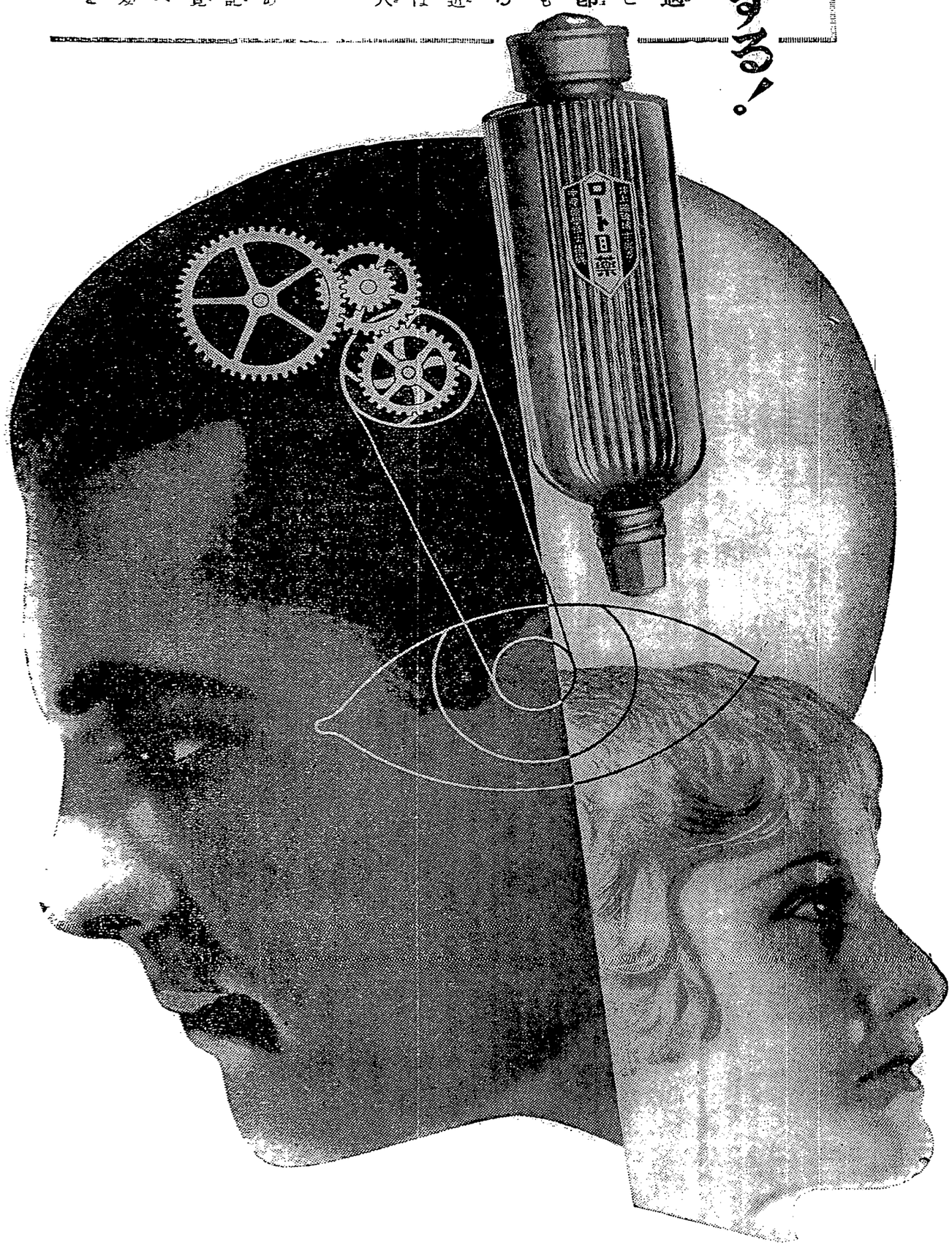
角膜炎は俗にほし目、つき目、かすみ目、たゞれ目などゝ呼ばれ、眼球の黒い部分に起る眼病であります。原因は草の葉や木の枝で突いた場合、或は結膜炎が進んで續發する場合が多く、黒目が濁つたり、白いほしが出來たりして眼が霞んで見え、或はひどく涙がにじて眦に糜爛を起すことがあります。療法は大體結膜炎の項で述べた通りを實行すればよく、ロート目藥の優れた消炎作用は角膜の炎症に對して極めて有効に働きその收斂作用と相俟つて眼の曇りを去り糜爛を癒し、炎症の減退に從つて流涙は少くなり、鎭痛作用でその疼痛は押へられるのであります。

眼は腦を支配する！

度の合はない眼鏡をかけたり、或は長時間過度に視力を用ひた時、頭痛や、倦怠を覺えることは誰もがよく經驗する事である。これは卽ち眼が直接腦の働きに關係し腦を支配するものであることを明かに立證してゐるのである

斯かる狀態になることを醫學上では眼精疲勞と云ひ、近代人、特に細い文字を讀み書きする學生や事務家、或は長時間裁縫に從事したり、職業的に微細な物體を視る人等に多くある近代的疾患の一つである。

眼精疲勞に罹つた場合は、初めは眼が疲れ易く物が朦朧と見え、頭痛や頭の重い感じを覺える程度であるが、これが更に進むと両眼が不良となり、判斷力や記憶力の減退をさへ告げる樣になる。この樣な症狀を自覺した場合は決して放任することなく、その原因となるべきことを避けると同時に、**ロート目藥**の如き健眼の效果のある、正しい眼科藥を毎日數回點眼して眼に休養を與へることを勵行することが肝要である。



適應症

結膜炎、角膜炎、トラホーム、學校眼炎、眼瞼縁炎、疲勞眼、結膜充血、角膜翳、麥粒腫等

倘俗 のぼせ目、はやり目、ただれ目、やに目、かすみ目、ほし目、こり目、くもり目、胃目、めぼし、つき目、はれ目、かわき目等

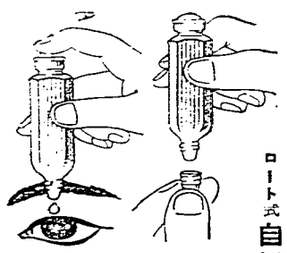
小兒の眼病に就いて

二、三歳より七、八歳位までの幼兒に於てよく見受けることですが、朝起きた時眼瞼の周圍に眼脂が附着し、甚しきは眼脂の爲に眼が明けられないことがあり、又急に白眼の部分が淡赤く充血したりする場合があります。之れは多くは急性の結膜炎に罹つてゐるのであります。

お子樣方の眼疾治療には特に小兒專用として處方調製された「小兒用ロート目藥」が有効で、シマズイタマズ安心して使用することが出來ます。

新案特許

ロート式自働點眼容器



使用法說明
下部のキャップ（ネジ蓋）をとり、眼の上のゴムを輕く押せば目藥は一滴づゝ出ます、樂かゞ少し無駄にならず便利衛生、携帶に至れり盡せり新式の點眼容器です。

生産合理化
藥價低廉

小瓶	二十錢
大瓶	三十錢
徳用	五十錢
小兒用	二十錢

◎全國各藥店に販賣す

山田安民藥房
製藥所　大阪市東區南久寶寺町
工場　大阪市東成區玉造新町

始政記念博分館

大稻埕諸有力者等設置期成同盟會

米作實收多於豫想 內臺米價轉昂 圓糯脫線的高價

始政四十周年臺灣博覽會紀念館之建設。種々協議結果。安藤親。又此回總代會之特點。乃有限責任。變更爲保證責任也。

組合樓上。種々協議結果。安藤親。又此回總代會之特點。乃有限責任。變更爲保證責任也。

梧棲街協議會

大甲郡梧棲協議會。去二十一日午前九時。開于街役場樓上會議室。由郡屬羽鹽務課長。同松原街庄長。開會致禮。次出席會員氏名報告。及參與員報告。指名會議錄署名者。黃海泉。王水河兩氏。楊街長。說明街治概況。並豫算編成方針。議事日程報告由是入議案。提示事項。昭和八年度。▲諸問事項。第一號議案。昭和十年度街歲入出豫算件。分爲第一二三讀會。目下未定。

鹽信總代會 役員指名

新營郡鹽水街鹽水信用組合。去十五日總代會所決議理事五名補缺選舉。及監事任期屆滿改選。大多數貧成上居郡守指名。郡守當時不能發表者。云欲愼重考慮。指名最適當之人。以副組合員之期待。日昨指名理事伊藤鎭三。黃福。陳賜。王筷。魏輕。監事鈴木雖。周清溪。郭破。組合長及專務。由理事互選。目下未定。

看天田深耕問題 惹起人權蹂躪

辯護士代表到現地實查

斐南州新營郡看天田深耕問題。因同郡警察課強制分萬華驛發列車。護送往新營郡。爲是慎愼之辯護士協會。以爲土地有力者爲依託調查警察之不法行爲來北。而被一警部之拘引狀拘去。大蹂躪人權。立派第一回代表者。蔡式穀辯護士。與劉明電氏同車破壞農民一切所有權。雖經嘆願。無何等顧慮。或對無辜農民拘禁。官憲自破壞法律。懇求貴會貴地調查後。擁護人權。又對懇請中止破壞地上物之劉文陣。劉字順。孫明受。劉萬發四名。現拘留于郡警察課。

立查眞相 伴野官長談

關此據高等法院伴野檢察官長所談如次。該事件爲屢初聞。如果事實。殊爲大問題。就中關人權蹂躪問題。常爲嚴達全島警察各西工業團體役員。訂來二十四日午後一時。在蓬萊閣。協議具體案。一面郭廷俊氏。以代表格。訪問警察署博覽會協賛會長松木電力社長。就分館設置特點。乃有限責任。變更保證責任也。

劉氏依賴書

劉明電氏。對辯護士協會依賴書。略謂村田警察課長。與製糖會社協力。藉口土地改良。亂用警察權破壞農民一切所有權。雖經嘆願。無何等顧慮。或對無辜農民拘禁。官憲自破壞法律。懇求貴會貴地調查後。擁護人權。又對懇請中止破壞地上物之劉文陣。劉字順。孫明受。劉萬發四名。現拘留于郡警察課。

南屯信組總會 無事通過

組合長重任

卽報盤中州大屯郡南屯信用組合。果於去二十日午前九時半。在該組合樓上。開第二回通常總會。森主事席。總代員九十七名中。六十八名出席。戊申詔書奉讀。森主事述開會趣旨。次移入役員改選。何組合長重任。監事選舉。付議事項。何組合員動議。何組合長重任。被選當重任。監事選舉。付議事項。當照原案可決。次移入役員改選。何組合長再被選當重任。監事新選賴錦泉。賴堂兩氏。

岸頭厝人士 陳情斗六郡 請勿減級

斗六郡岸頭厝公學校。爲兒童數減少。故自明年度起。減少一學級。該地父兄有志。深覺憂慮。擬自明年度起。欲募集二學級分之兒童數。期免減級。關係各國。相與諒解。

一、客年六月初旬。加拉巴開日蘭會商。如在前議會所述。奈問題極雜。未能一々具體妥結。雖然。當方代表過去六個月以上努力。明彼此通商上之立場。而釋各種誤解。卻有效果。且爲今後發行交涉。完成重要基礎。所信不疑也。

米管理案 全國大反對 使米穀商潰滅

政府農村對策之米穀自治管理法案。欲提出通常議會。同案欲將農家生產米強使販賣組合統制。如是則全國二千萬之米穀業者必潰滅。全國米穀商組合聯合會評議會。二十一日午前十時。開於深川正米市場樓上。參集者百三十名可決反對運動。午後一時散會。

高雄市協議會（第一日）

各員熱心質問而後 一瀉千里可決原案

高雄市通常協議會。去二十一日午前九時二十分。開于會堂樓上。定刻。諸協議員及參與員著席。松尾市尹就議長席。宣告開會。報告參與員氏名。及指名會議錄署名者之忠一。潘致祥兩氏。竝選常置員。同補充員各三名。議事日程等完了後。市尹說明豫算編成方針。及概況。凡半時間。休憩五分後再開。乃入議事。第一議案。自昭和九年至十年度。市聚舍新營貧繼續費年期及支出方法更正之件。第二號議案。昭和九年度歲入出更正豫算之件。第三號議案昭和九年度歲入出追加豫算。以上由小野助役。說明內容。省略讀會。全員贊成。可決原案。次昭和十年度歲入出豫算之件。由小野助役。就豫算案全面增減事情。及新規計畫等。詳細說明。入第一讀會。首由安藤彥市氏。質問新設第四公學校通學區域內有志。陳情同校新設時。有言寄附敷地或現金。該豫算面。全無記載。不知何故。小野助役。答以寄附尚未之聞。安藤氏更云寄附希實。當時曾揭載于報上。且前市尹小林氏。在月例會時。亦有辭明。松尾議長。答以余尚未聞。若以淨財。寄附公共施設。決無辭退。此數日來。研究善後策。梨古坑庄長吳梓春氏。及該地出身者。斗六街協陳海永氏。崁頭厝信用組合長陳香陣氏。保正林和尙氏。外三氏。爲陳情委員。於去二十一日。午前十一時。到郡訪問齋藤郡守。就前記要件。詳細陳情後。至正午一同退出。

南方出漁員採取船 受中華帆船襲擊 船長重傷機關長失踪 懇請軍艦出動

去二十一日午後三時。歸高雄港之漁人草組合員副島氏所有發動機船山福丸救助。昨年十一月二十日。出高雄港。向新南洋島方面之同組合員宮下氏所有發動機船元榮丸（二十五噸）負傷船長金城氏以下乘組員歸來。卽元榮丸。昨年十一月二十九日。在同群島近海。採取廣瀨貝文。近且開起草委員會。調整原文。其委員如左。

日本側　歐亞局第一課長　西春彥。

滿洲國側　外交次長大橋忠一。

蘇俄側　葛路士奇

貴族院本會議 碩學登壇 倍見緊張

東京二十二日電。休會再開第一日二十二日貴族院本會議。關大藏省事件之人種蘇鐵問題。傳美濃部達吉博士。岩田宙造博士等。法學界之泰斗。且起於貴族院壇上。早見緊加午前十時十三分開議。近衛議長就議長席。真入日程。廳同田首相。首相答辯。演說廳政府。勿論無進而擴張軍備之意圖。唯期待照約規定。昨年十二月二十九日。又鑒查友誼任。當日將翠行改選云

廣田外相外交演說 對華特別用心

東京二十二日電。二十二日午前十二時。廣田外相在貴族院。外交演說要旨如左。

一、滿洲國。今也。既成建國基礎。今後發達。多待日滿兩國民諒和協力。就中經濟方面。期待益舉有無相通。共存共榮之實。

一、大正十一年。在華府署名之海軍軍備制限條約。今與其方針。有所不容。帝國政府。照其條約規定。昨年十二月二十九日。

（原諸配達）（明治卅一年五月九日第三種郵便物認可）　昭和十年十二月二十三日　臺灣日日新報　（水曜日）　第一万二千五百四號　A——（七）

臺灣新聞

本日夕刊共十二頁

婦女界　家庭の婦人と職業婦人の職業と副業案内

職業婦人と結婚問題

座談會

牧師の娘に好適の不利な副業／内職に便利な授産場／上手な小資本の飲食店開業案内／女手で出來る内職／就職難を突破した私の就職秘術／公開就職辯大會／誌上公開雄辯會／書生道　華やかな座談會／この人の言を聞く／成功の名士／東都大學生特ダネ競爭／三教家講演集／農村工業のいろいろ／華府條約廢棄通告と其後にもの／英雄偉人の劇的シーン／時の人次信正／歷代衆議院議長總まくり／人氣俳優比佐昌平君とその持味／處女演說の大失敗／政黨離合の前奏曲／職業婦人の小遣帳／家庭の婦人に適する職業／職業婦人として成功する秘訣／職業婦人を忘れ方の爲に／十年以上職場の實を訪ねて／苦しい戀愛戰線を突破した手記／肺病の夫を愛する秘訣を訊く／必ず夫に愛される秘訣十ケ條／舞踊界の女王藤蔭靜枝さんの苦闘物語／受驗地獄に惱む母の訴／民間療法で難病を征服した經驗／子供の心を捉へる話方／軍事探偵小說　東の先驅者／故郷の人々／前垂部隊／都會の虹／賀川豊彦氏大力作／河野省三師の二教家講演集

雄辯

テーブル・スピーチ模範例

隨感隨想

雄辯大會

誌上公開雄辯會

書生道　華やかな座談會

定價五十錢（圓五錢二料送）

東京小石川區音羽町三ノ九　大日本雄辯會講談社

仁丹の市

仁丹で寒さに勝つ体力源を養はれよ！

藥價	藥
二十錢	仁丹
三十錢	金百粒（一六五粒）
五十錢	浦瀨粒劑（二三〇粒）
日清ケース（二三〇粒）	明治粒劑（二三〇粒）
特選用分（二三〇粒）	御徳用分（二三〇粒）

胃腸を強める良藥サフランを倍加せる赤の小粒は、進用に依り藥効殊に大

消化不良、食慾減退、胃酸カタル、胃痛、胃拡張、胃潰瘍、胃癌、慢性胃炎、胃酸過多、胃酸不足、胃出血、悪血症、悪心、嘔吐、悪酔等に著効あり

胃腸が勢ひづく

冬は胃腸が萎縮し、消化不良を起こし易いが始終、仁丹を忘れぬ様にすれば、冬でも胃腸は勢ひを得て、榮養は益々増進する

感冒も逃げ出す

仁丹を絶えずのんで居れば、身體は引締まり血行がよくなつて暖たかく、冬でも決して風邪を引かぬ抵抗力が、しつかり根ざす

だから冬は、仁丹を運用して、耐寒的な藥効を十分に活用されよ。

仁丹石鹸と仁丹歯磨の　本舗・森下博營業所

支那に對日態度の轉換
蔣政權の獨裁化運動も反映

一、最近、支那の對日外交が一般に親日的になる傾向にあることは、日本に接近せんとするもので、眞に喜ぶべき現象である。歐洲とはかの地より脫して、支那に接近せんとするもので、眞に喜ぶべき現象である。歐洲とはかの地より脫して、支那に接近せんとするもので、眞に喜ぶべき現象である。

二、日支兩國のブロック強化が其の要なる有力な現れである。極東の平和は何といつても日支の親善、眞の親善關係の增進にある事は申すまでもない事であり、此の傾向は喜ぶべき事に相違ないが、併し其の間には複雜な事情が存する。支那における國內的の諸關係が未だ確固の地盤にまで到達せず、それで國內の統一、國權の强化が此の傾向に拍車をかけるのである。

三、今日の支那における最も重大な問題の一は南京政府の財政が甚しく窮乏を告げる點である。打續く內亂の爲め、共國の債行、政府の財政要求の爲めに、民衆の疲弊甚しく、疲弊はず、かくの如き窮狀は世界にまだ例を見ない。

證民失業者調整費に一億六千萬と稱せられてゐる。其の捻出を新年度に於いて行へば、軍務費二割九分、財務費九分を合計して既に歲出全額の八割餘に達するのである。將來の財源を培養する方面への支出は殆ど見るべきものがなく、從に軍務費、債務費の增大を加へるのみ。歲入の主なるものは關務關稅、統稅であるが、その不安な狀態は從に稅收額を減ずる結果を來してゐる。しかも關稅は關稅收入の內外債支拂に充當されてゐる。財源である。財源を培養する方面への支出は殆ど見るべきものがなく、從に軍務費、債務費の增大を加へるのみ。歲入の主なるものは關務關稅、統稅であるが、その不安な狀態は從に稅收額を減ずる結果を來してゐる。しかも關稅は關稅收入の內外債支拂に充當されてゐる。財源である。

四、支那に於ては軍務費が餘りに多く、政府の生命であつて、それが餘りに限り政府が維持されて居るのであつて、此の點南京政府も同じ運命にある。南京政府が內債、外債に注ぎするは軍務費關係の爲めであり、而もそれは軍務費として費消され、殆ど生產的方面に投ぜられざる點より、結果として財政を苦しめる關係となり、外債による外債の元利補の爲めに財源がないのだから勢ひ、外債による外はない。さきに宋子文の外資導入の夢があり、最近兩科の割讓借款が傳へられ、その失敗は當然歐米特に英らずとし、日本に接近といふ事になるわけであつて、對日借款には大いに食指を動かしつつあるものと察せられ、歐米諸國の對支外交の變化が即ちそれで、更に南京の獨立、日支關係の强化が此の傾向に拍車をかけてゐるのである。

五、支那に於ける政務の獨裁化は固より蔣介石政權の獨裁化である。憲法問題、憲章修正の一事件が此の點に於て顯著に現はれてゐる。憲法とは名のみで、そこに何等の權力を有するものであり、そこに何等の權力を有するものであるが、反憲運動の勃發したものが必ずに起る。憲章修正、蔣介石を大總統とし、更に任期に於て再選等の實

政友會の鬪將島田氏
政府の肺腑を突く
"爆彈動議"は逆に政府に突返す
衆議院本會議

【東京二十二日發】迎へ初日廿二日の衆議院本會議は政友會の旬日二に立つて昨秋臨時議會の際の所謂"爆彈動議"の經緯に關し政友會の島田俊雄氏が第一陣に質問に立つ事となつてゐたが、午後一時半四分開會

議長　濱田國松君

島田俊雄君（政友）登壇

先づ外交關係に關する質問に入り第一陣として島田俊雄氏登壇

島田俊雄氏（政友）登壇

濱田議長　濱田國松君

議長　濱田國松君

財政政策の矛盾を指摘
大口喜六氏の舌鋒

我國の財政は依然として財政であるが一方世界の情勢を見るに我國の位置は極めて重大であり今日となつては一時凌ぎの消極策は許されぬ、宜しく一大英斷を以て新たに國策を樹立してこれが實行を期せねばならぬ

と前提し岡田內閣の大口喜六氏（政友）登壇

大口喜六氏（政友）登壇

久原氏の申込に
民政黨應諾
聯携委員の會合
二十三日行れん

【東京二十二日發】政民聯携の趣意に基き政友會久原房之助氏の申込に依り民政黨の鵜沢總一郎氏は二十二日午後二時院內議長室にて久原氏と會見し久原氏より

に協議したい

と聯携促進を希望し約五十分間に亘り懇談會見を終つた、右の結果民政黨では同五時院內で聯携委員

櫻內幸雄氏（民政）登壇

官界の空氣沈滯は
身分保障法の罪
改正の意思なきやを突込む
氣兼氣味の——櫻內幸雄氏の質問

三土前鐵相が
自ら起つ
人權蹂躙問題で
大口君質問を閉つ
岡田首相　登壇

豫算總會の質問順

基隆勸業協會
近く委員會召集

地方制度改正案の
本制の審議
今月中に終了せん

宮本一學氏
府評議員に

外相の演說は米に好印象を與ふ

支那醫師團
日本視察
十六日香港出發

臺中市民館で
社會事業講習
來月十二日から

銘酒　翠若

◉特價奉仕
サンゴと文石
新品豐富荷揃ひ
是非御來觀願ひます……
山一物産販賣所
臺北市榮町　電話九七四番

天上醬油
（二立詰）
臺本每に
上等皿
臺枚宛
進呈
春季特別サービス

臺灣銀行
資本金　壹千萬圓
佛領印度支那銀行
資本金　壹千萬圓
株式會社義書換
臺灣電力會社
臺灣電力會社
臺灣電力會社

朴子溪氾濫防止の堤防築造に決定

街民もおほ喜び

おごそかに行はる

嘉南大圳朴子街を繞る郊外を流れる朴子溪は毎年雨期に到れば大増水を来し溪水氾濫して之が為め堤防の決潰箇所多きに水害地及農業地に甚大の損害を与へ所の堤防は去年の如き大洪水に際しても殆んど無事となつて街内に住む人口一万五千余人は勿論一万五千町歩の農作物の安全を保つ事が出来たので街民の生命財産は勿論農作物に至る迄全く此の堤防の賜物であるとて街民は非常に感謝の意を表し堤防の築造を実現すべしとて嘉義州当局に水害復興費の出方を申請中の所一昨年来一万三千五百円の復興費を以つてコンクリートの完全な堤防を構築することに決定近く工事に着手する筈でこれに依つて嘉街は年々の水害から免れるであらうと喜ばれてゐる

適切有效に豫算を運用

高雄市協議會終了

【高雄電話】第十八回高雄市議會は二日午前九時より會議室に開會第一日は前日に引續き一般質問を行ひ午後一時より市會議員二名を市參與に選擧し午後二時散會した

臺中市の豫算内示會

新事業は家政女學校その他

【臺中電話】臺中市は昭和十年度豫算は八十萬圓突破の豫算となるが市當局は十年度豫算は前年度豫算に比し約十萬圓の減額となるものである事を發表し市會議員に對し豫算内示會を二十二日午後三時半市役所會議室に於て開催する事となつた

農産品評會

入場者一萬餘　盛況裡に閉會

【臺東電話】臺東廳主催第二回農產品評會は二十日、二十一日の二日間里壠に於て開催されたが二十日迄街頭に貼られてゐた流感豫防の不氣味なポスターは二十一日は早や品評會宣傳のいとも氣よきポスターに塗り代へられ大通りの裝飾も美々しく折柄の好天に誘まれて全街擧つて氣分に浮き妾つてゐた會場は殿堂を中心に、農業館、衞生館、畜產館、販賣の各館に分れて數下の一堂に集め何れも參觀人の雜踏で超滿員の盛況、夜は又街生活動寫眞や臺人藝能の公開等ありて遠々下山して來た山の珍客の目を楽ばしてゐたが、二日間の會期中地方の團下各地より押寄せた參觀人は

獻穀畑の地鎭播種祭

おごそかに行はる

【花蓮港電話】花蓮港廳は本年の新嘗祭に獻ずべき獻穀畑地鎭播種祭を二十二日前十時三十分から吉野村の獻穀畑地に於て廳長、警察課長、庶務課長外各課長、吉野村長、助役、收入役、各區長、各部落總代、其の他關係者多數參列の下に執行した。朝日の祝詞に次いで祭儀を終し廳長の祝詞奏上次に六名の系統に屬畑を打つて種藥を播き終つて廳長玉串を捧げて參拜、次に地鎭祭を終了して午後一時より散會した

農業品評會

農業品評會　臺中州彰化郡では郡下重要農產物の改良發達を期し併せて農業經營の合理化を圖る目的の農業品評會を計畫し來る二月八日午前九時より郡役所構内に於て穀物の陳列、穀の鑑定會を開き優良者に賞狀を授與する筈

幽靈豫算を計上するな

先師を祭はつて大藏友明氏　娛樂稅使用料が過ぎはしないか前年度役所費中衛生援手を採用すべく計上しながらこれが實現を見ず十年度にも同樣のものが計上されてゐるが幽靈豫算になりはせまいか　娛樂稅使用料に付き質し　坂梨參與　娛樂稅使用料に付き質し　坂梨參與　娛樂稅使用料の相違を生ずるのは條例ないこと

「豫算決定」に差違なきやう編成され度い

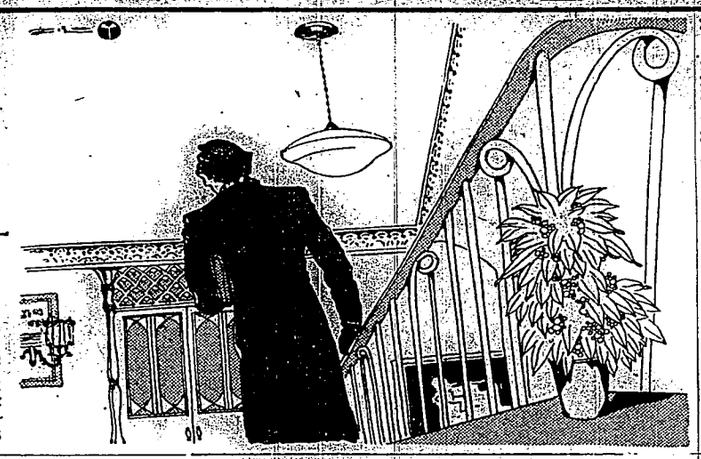
新竹市協議會第一日

【新竹電話】第八回新竹市協議會は慶の如く二十二日新竹市役所會議室に於て開會された、臨時州内務部長、星地方部長臨席、南市市尹開會を宣す時に午前十時十五分、傍聽席には桑原佐一郎、清水源次郎、大江退三の州協を始め東州稅務課長、久保新竹小學校長外市民二十餘名の顏が見えてゐる市尹より大江退三氏の州協議員となつた神缺として小出正美氏が任命された旨報告、出缺席議員報告（缺席者田中淸次郎、進徹明、許延齡、太田重助の四氏）會議錄署名者に大塚孝太郎、林鐵の兩氏を指命、參與員及び書記名の朗讀あり十時二十分より三十五分間に亙り南木市尹の市政並に豫算に付說明があり、中内敏治氏の挨拶あつて南木市尹退席、協議會に移り議長席に着いて先づ第十號議案昭和八年度新竹市歲入歲出豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め此の時議會內務部長岡崎勝之進に代つて第十號議案に關し說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第十一號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第十二號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第十三號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第十四號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第十五號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第十六號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第十七號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第十八號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第十九號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第二十號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第二十一號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第二十二號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第二十三號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第二十四號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第二十五號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第二十六號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第二十七號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第二十八號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第二十九號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第三十號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第三十一號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第三十二號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第三十三號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第三十四號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第三十五號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第三十六號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第三十七號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第三十八號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第三十九號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第四十號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第四十一號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第四十二號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第四十三號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第四十四號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第四十五號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第四十六號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第四十七號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第四十八號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第四十九號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第五十號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第五十一號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第五十二號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第五十三號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第五十四號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第五十五號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第五十六號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第五十七號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第五十八號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第五十九號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第六十號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第六十一號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第六十二號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第六十三號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第六十四號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第六十五號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第六十六號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第六十七號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第六十八號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第六十九號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第七十號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第七十一號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第七十二號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第七十三號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第七十四號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第七十五號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第七十六號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第七十七號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第七十八號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第七十九號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第八十號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第八十一號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第八十二號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第八十三號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第八十四號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第八十五號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第八十六號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第八十七號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第八十八號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第八十九號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第九十號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第九十一號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第九十二號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第九十三號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第九十四號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第九十五號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第九十六號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第九十七號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第九十八號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第九十九號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第百號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第百一號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第百二號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第百三號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第百四號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第百五號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第百六號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第百七號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第百八號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第百九號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第百十號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第百十一號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第百十二號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第百十三號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第百十四號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第百十五號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第百十六號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第百十七號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第百十八號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第百十九號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第百二十號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第百二十一號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第百二十二號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第百二十三號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第百二十四號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第百二十五號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第百二十六號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第百二十七號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第百二十八號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第百二十九號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第百三十號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第百三十一號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第百三十二號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第百三十三號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第百三十四號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第百三十五號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第百三十六號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第百三十七號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第百三十八號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第百三十九號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第百四十號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第百四十一號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第百四十二號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第百四十三號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第百四十四號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第百四十五號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第百四十六號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀會に入り吉川敬九郎、林鐵の兩氏より質問に對し小野參與官の說明あり質疑なきを認め第二讀會に入り全部を委員の附託に決し次で第百四十七號議案昭和八年度水道豫算中追加豫算の內容說明あり第一讀

哭きな青春

(106)【七十六】

三上於菟吉
郯二郎畫



新しき日（その三）

しかし、すつかり夜があけはなれると、さつきのこころは、また實世間へ引きもどされずにはゐない。かうしたまま、今日一日をくらしてしまつたなら、もう〳〵自家へ戻りにくくなる身になるとしか思はれないのだつた。それでも、知かい月が、またそれが氣になつてならないのだ。

それで來るうちまで、悶々々してゐるだが、たうとう思ひ切つたやうに、言ひ出した。

「おたしも、ちよいと、歸つて來るわ。」

義父は例に依つて、讀掛ものデスクに向つてゐるだが、振りかへつて、

「歸つて來る？　そして、すぐに出直して來られる？」

「さあ——」

さつきはうつむいた。

「すぐに來られるかどうか？　あたし、おかあさまが、何と云はおあつてもやや、おとうさまに申し上げることが出來るでせう？」

と、さつきは、苦しく、切なかつた。

「あたし、とにかく、歸るわ。今夜おそくなつたら、一生、うちのしきゐはまたげはしないものー」

「一そ、一生、僕と二人ヶ切りでこのままゐてくれれば——」

「おたしも、いくらその方がいいでせう。」

と、さつきは呼くやうに、

「でも、世は、このごろずつと緯てゐるのですし——」

彼女は、どうしても、早く歸らなければならない——じつとしてゐられないやうな氣持が、一瞬も彌を去らしさせないのだ。

「ぢや、行つて來るわね！」

彼女は、わざと、輕快に言つて、すゐツと、義父の揖を出さうとするが、義父は、さつきに、外套を着せかけてやつて、そのまま、機械した。

「なるたけ、今夜、歸つて來るのですよ。僕は、一人で、じつと、この部屋にゐるのですー忘れずにね」

——どうして、それが、忘れられよう！

彼女は、逃き出したい脚を、ぎゆうとかみしめるやうにして、ホテルの部屋を、いそいで外へ出てしまつた。

もう、夕暮が、すつかりうすれてゐる頃だつた。

それが氣になつてならないのよー——こんなに家をあけるのなど、生れてはじめてのことですものー」

義父はいやらしさうに、さつきの出先を取つて、

「僕がわるいのだよー僕が、あんまり急に、淋しすぎたのかも知れないよ。しかし、自分を、どうすることも出來なかつたのだ。」

「いいえ、先生がわるいなんてことは、なんにもないわ」

と、さつきは、荒つぽく自を振つた。

「いけないのは、あたしよ、あたしが、こんな氣持になりさへしなければ、先生に、何の苦勞もかけずにすんだのだけれど——おくさまにだつて——」

「それを言つてはいけないといふのに——」

と、義父は遮つた。

「でも、まう、仕方がないのだ。これから先きは、二人で强くなりさへすればいいのだ。僕も、いづれ君のお父さまへ、お母さまに謝まつておわびをするときがあると思ふよ。君からも、何とか申し上げておいてくれ給へ。」

——だつて、どうして、あたしと、福田先生と、これ〳〵だつて

北市西門町市場發表、臺南市西市場發表）

午後の部

【一・五九】正午の時報（氣象通報發表のみ）臺北圖書館發表

【〇・一〇】放送局報報ニュース【〇・二〇】臺灣語講座時間（レコード演奏、淡花節、小金井と新門木村友衛入音曲一都々逸二伊藤節、三流亭周右入小唄「松壺し」分山田和香

【一・〇〇】氣象通報（臺南のみ）臺南測候所發表

夜間の部

【五・〇〇】子供の時間（名古屋）お話種子ケ島晉助開

【六・三〇】講演（東京）海外に流れ出た「國寶的」美術品：野口米次郎

【七・〇〇】放送局報（東京）佐藤ク島：退ひ吹田村通の段）村井紋寶作詞　若松若太夫作曲）淨瑠璃若松若太夫、三味線柏木若之助

【七・二五】物語（大阪發表のみ）伊奈十杉田直國

【五・一〇】コドモの新聞（東京）村岡花子

【五・二五】語學講座（東京）基礎英語　第二講岡倉由三郎：テキストは一部二十五錢、發料四錢

【五・五五】カレントトピックス（東京）ハロルド・パーマー

【六・〇〇】子供の時間（名古屋）お話種子ケ島晉助開

【六・三〇】講演（東京）海外に流れ出た「國寶的」美術品：野口米次郎

【七・〇〇】放送局報（東京）佐藤ク島：退ひ吹田村通の段）村井紋寶作詞　若松若太夫作曲）淨瑠璃若松若太夫、三味線柏木若之助

【七・二五】物語（大阪發表のみ）伊奈十杉田直國

【八・〇〇】獨唱（東京）太田稜子、伊奈一郎ギター伴奏　ヴァイオリン助奏　杉定、第一部イ善の宵　ロゆく春　ハ月　ニ微笑、第二部イ月の光（ロ）踊り子（ハ夜のジャズ（ニセキディリア

【八・三〇】時報（東京）

【八・三一】俚謠（東京）江差追分の唄　勝澤孝治山、尺八　西山眞月

【八・五〇】講演（臺北のみ）十王殿裏の一（臺北のみ）十王殿裏の一幕）新天狗（綠蓑翁、伊奈新社小西圓國員　李王殿下御迎の夕（第二日）

（臺南のみ）

【自六・〇〇至六・三〇】子供の時間（臺南のみ）臺南放送局

【自六・五五至九・二〇】臺灣民謠（臺南のみ）二、臺灣音頭（西樂八十作詞、中山晉平作曲）二島の唄　三、臺南の島（臺南放送局）唄　四、南の島（臺南放送局）唄　五、南の島（臺南放送局）唄　六、南の島（臺南放送局）唄　七、南の島（臺南放送局）唄　八、南の島（臺南放送局）唄　九、南の島（臺南放送局）唄　十、南の島（臺南放送局）唄　十一、南の島（臺南放送局）唄　十二、南の島（臺南放送局）唄　十三、南の島（臺南放送局）唄　十四、南の島（臺南放送局）唄　十五、南の島（臺南放送局）唄　十六、南の島（臺南放送局）唄　十七、南の島（臺南放送局）唄　十八、南の島（臺南放送局）唄　十九、南の島（臺南放送局）唄　二十、南の島（臺南放送局）唄　二十一、南の島（臺南放送局）唄　二十二、南の島（臺南放送局）唄　二十三、南の島（臺南放送局）唄　二十四、南の島（臺南放送局）唄　二十五、南の島（臺南放送局）唄　二十六、南の島（臺南放送局）唄　二十七、南の島（臺南放送局）唄　二十八、南の島（臺南放送局）唄　二十九、南の島（臺南放送局）唄　三十、南の島（臺南放送局）唄　三十一、南の島（臺南放送局）唄　三十二、南の島（臺南放送局）唄　三十三、南の島（臺南放送局）唄　三十四、南の島（臺南放送局）唄　三十五、南の島（臺南放送局）唄　三十六、南の島（臺南放送局）唄　三十七、南の島（臺南放送局）唄　三十八、南の島（臺南放送局）唄　三十九、南の島（臺南放送局）唄　四十、南の島（臺南放送局）唄　四十一、南の島（臺南放送局）唄　四十二、南の島（臺南放送局）唄　四十三、南の島（臺南放送局）唄　四十四、南の島（臺南放送局）唄　四十五、南の島（臺南放送局）唄　四十六、南の島（臺南放送局）唄　四十七、南の島（臺南放送局）唄　四十八、南の島（臺南放送局）唄　四十九、南の島（臺南放送局）唄　五十、南の島（臺南放送局）唄　五十一、南の島（臺南放送局）唄　五十二、南の島（臺南放送局）唄　五十三、南の島（臺南放送局）唄　五十四、南の島（臺南放送局）唄　五十五、南の島（臺南放送局）唄　五十六、南の島（臺南放送局）唄　五十七、南の島（臺南放送局）唄　五十八、南の島（臺南放送局）唄　五十九、南の島（臺南放送局）唄　六十、南の島（臺南放送局）唄　六十一、南の島（臺南放送局）唄　六十二、南の島（臺南放送局）唄　六十三、南の島（臺南放送局）唄　六十四、南の島（臺南放送局）唄　六十五、南の島（臺南放送局）唄　六十六、南の島（臺南放送局）唄　六十七、南の島（臺南放送局）唄　六十八、南の島（臺南放送局）唄　六十九、南の島（臺南放送局）唄　七十、南の島（臺南放送局）唄　七十一、南の島（臺南放送局）唄　七十二、南の島（臺南放送局）唄　七十三、南の島（臺南放送局）唄　七十四、南の島（臺南放送局）唄　七十五、南の島（臺南放送局）唄　七十六、南の島（臺南放送局）唄　七十七、南の島（臺南放送局）唄　七十八、南の島（臺南放送局）唄　七十九、南の島（臺南放送局）唄　八十、南の島（臺南放送局）唄　八十一、南の島（臺南放送局）唄　八十二、南の島（臺南放送局）唄　八十三、南の島（臺南放送局）唄　八十四、南の島（臺南放送局）唄　八十五、南の島（臺南放送局）唄　八十六、南の島（臺南放送局）唄　八十七、南の島（臺南放送局）唄　八十八、南の島（臺南放送局）唄　八十九、南の島（臺南放送局）唄　九十、南の島（臺南放送局）唄　九十一、南の島（臺南放送局）唄　九十二、南の島（臺南放送局）唄　九十三、南の島（臺南放送局）唄　九十四、南の島（臺南放送局）唄　九十五、南の島（臺南放送局）唄　九十六、南の島（臺南放送局）唄　九十七、南の島（臺南放送局）唄　九十八、南の島（臺南放送局）唄　九十九、南の島（臺南放送局）唄　百、南の島（臺南放送局）唄　百一、南の島（臺南放送局）唄　百二、南の島（臺南放送局）唄　百三、南の島（臺南放送局）唄　百四、南の島（臺南放送局）唄　百五、南の島（臺南放送局）唄　百六、南の島（臺南放送局）唄　百七、南の島（臺南放送局）唄　百八、南の島（臺南放送局）唄　百九、南の島（臺南放送局）唄　百十、南の島（臺南放送局）唄　百十一、南の島（臺南放送局）唄　百十二、南の島（臺南放送局）唄　百十三、南の島（臺南放送局）唄　百十四、南の島（臺南放送局）唄　百十五、南の島（臺南放送局）唄　百十六、南の島（臺南放送局）唄　百十七、南の島（臺南放送局）唄　百十八、南の島（臺南放送局）唄　百十九、南の島（臺南放送局）唄　百二十、南の島（臺南放送局）唄　百二十一、南の島（臺南放送局）唄　百二十二、南の島（臺南放送局）唄　百二十三、南の島（臺南放送局）唄　百二十四、南の島（臺南放送局）唄　百二十五、南の島（臺南放送局）唄　百二十六、南の島（臺南放送局）唄　百二十七、南の島（臺南放送局）唄　百二十八、南の島（臺南放送局）唄　百二十九、南の島（臺南放送局）唄　百三十、南の島（臺南放送局）唄　百三十一、南の島（臺南放送局）唄　百三十二、南の島（臺南放送局）唄　百三十三、南の島（臺南放送局）唄　百三十四、南の島（臺南放送局）唄　百三十五、南の島（臺南放送局）唄　百三十六、南の島（臺南放送局）唄　百三十七、南の島（臺南放送局）唄　百三十八、南の島（臺南放送局）唄　百三十九、南の島（臺南放送局）唄　百四十、南の島（臺南放送局）唄　百四十一、南の島（臺南放送局）唄　百四十二、南の島（臺南放送局）唄　百四十三、南の島（臺南放送局）唄　百四十四、南の島（臺南放送局）唄　百四十五、南の島（臺南放送局）唄　百四十六、南の島（臺南放送局）唄　百四十七、南の島（臺南放送局）唄　百四十八、南の島（臺南放送局）唄　百四十九、南の島（臺南放送局）唄　百五十、南の島（臺南放送局）唄　百五十一、南の島（臺南放送局）唄　百五十二、南の島（臺南放送局）唄　百五十三、南の島（臺南放送局）唄　百五十四、南の島（臺南放送局）唄　百五十五、南の島（臺南放送局）唄　百五十六、南の島（臺南放送局）唄　百五十七、南の島（臺南放送局）唄　百五十八、南の島（臺南放送局）唄　百五十九、南の島（臺南放送局）唄　百六十、南の島（臺南放送局）唄　百六十一、南の島（臺南放送局）唄　百六十二、南の島（臺南放送局）唄　百六十三、南の島（臺南放送局）唄　百六十四、南の島（臺南放送局）唄　百六十五、南の島（臺南放送局）唄　百六十六、南の島（臺南放送局）唄　百六十七、南の島（臺南放送局）唄　百六十八、南の島（臺南放送局）唄　百六十九、南の島（臺南放送局）唄　百七十、南の島（臺南放送局）唄　百七十一、南の島（臺南放送局）唄　百七十二、南の島（臺南放送局）唄　百七十三、南の島（臺南放送局）唄　百七十四、南の島（臺南放送局）唄　百七十五、南の島（臺南放送局）唄　百七十六、南の島（臺南放送局）唄　百七十七、南の島（臺南放送局）唄　百七十八、南の島（臺南放送局）唄　百七十九、南の島（臺南放送局）唄　百八十、南の島（臺南放送局）唄　百八十一、南の島（臺南放送局）唄　百八十二、南の島（臺南放送局）唄　百八十三、南の島（臺南放送局）唄　百八十四、南の島（臺南放送局）唄　百八十五、南の島（臺南放送局）唄　百八十六、南の島（臺南放送局）唄　百八十七、南の島（臺南放送局）唄　百八十八、南の島（臺南放送局）唄　百八十九、南の島（臺南放送局）唄　百九十、南の島（臺南放送局）唄　百九十一、南の島（臺南放送局）唄　百九十二、南の島（臺南放送局）唄　百九十三、南の島（臺南放送局）唄　百九十四、南の島（臺南放送局）唄　百九十五、南の島（臺南放送局）唄　百九十六、南の島（臺南放送局）唄　百九十七、南の島（臺南放送局）唄　百九十八、南の島（臺南放送局）唄　百九十九、南の島（臺南放送局）唄　二百、南の島（臺南放送局）唄　二百一、南の島（臺南放送局）唄　二百二、南の島（臺南放送局）唄　二百三、南の島（臺南放送局）唄　二百四、南の島（臺南放送局）唄　二百五、南の島（臺南放送局）唄　二百六、南の島（臺南放送局）唄　二百七、南の島（臺南放送局）唄　二百八、南の島（臺南放送局）唄　二百九、南の島（臺南放送局）唄　二百十、南の島（臺南放送局）唄　二百十一、南の島（臺南放送局）唄　二百十二、南の島（臺南放送局）唄　二百十三、南の島（臺南放送局）唄　二百十四、南の島（臺南放送局）唄　二百十五、南の島（臺南放送局）唄　二百十六、南の島（臺南放送局）唄　二百十七、南の島（臺南放送局）唄　二百十八、南の島（臺南放送局）唄　二百十九、南の島（臺南放送局）唄　二百二十、南の島（臺南放送局）唄　二百二十一、南の島（臺南放送局）唄　二百二十二、南の島（臺南放送局）唄　二百二十三、南の島（臺南放送局）唄　二百二十四、南の島（臺南放送局）唄　二百二十五、南の島（臺南放送局）唄　二百二十六、南の島（臺南放送局）唄　二百二十七、南の島（臺南放送局）唄　二百二十八、南の島（臺南放送局）唄　二百二十九、南の島（臺南放送局）唄　二百三十、南の島（臺南放送局）唄　二百三十一、南の島（臺南放送局）唄　二百三十二、南の島（臺南放送局）唄　二百三十三、南の島（臺南放送局）唄　二百三十四、南の島（臺南放送局）唄　二百三十五、南の島（臺南放送局）唄　二百三十六、南の島（臺南放送局）唄　二百三十七、南の島（臺南放送局）唄　二百三十八、南の島（臺南放送局）唄　二百三十九、南の島（臺南放送局）唄　二百四十、南の島（臺南放送局）唄　二百四十一、南の島（臺南放送局）唄　二百四十二、南の島（臺南放送局）唄　二百四十三、南の島（臺南放送局）唄　二百四十四、南の島（臺南放送局）唄　二百四十五、南の島（臺南放送局）唄　二百四十六、南の島（臺南放送局）唄　二百四十七、南の島（臺南放送局）唄　二百四十八、南の島（臺南放送局）唄　二百四十九、南の島（臺南放送局）唄　二百五十、南の島（臺南放送局）唄　二百五十一、南の島（臺南放送局）唄　二百五十二、南の島（臺南放送局）唄　二百五十三、南の島（臺南放送局）唄　二百五十四、南の島（臺南放送局）唄　二百五十五、南の島（臺南放送局）唄　二百五十六、南の島（臺南放送局）唄　二百五十七、南の島（臺南放送局）唄　二百五十八、南の島（臺南放送局）唄　二百五十九、南の島（臺南放送局）唄　二百六十、南の島（臺南放送局）唄　二百六十一、南の島（臺南放送局）唄　二百六十二、南の島（臺南放送局）唄　二百六十三、南の島（臺南放送局）唄　二百六十四、南の島（臺南放送局）唄　二百六十五、南の島（臺南放送局）唄　二百六十六、南の島（臺南放送局）唄　二百六十七、南の島（臺南放送局）唄　二百六十八、南の島（臺南放送局）唄　二百六十九、南の島（臺南放送局）唄　二百七十、南の島（臺南放送局）唄　二百七十一、南の島（臺南放送局）唄　二百七十二、南の島（臺南放送局）唄　二百七十三、南の島（臺南放送局）唄　二百七十四、南の島（臺南放送局）唄　二百七十五、南の島（臺南放送局）唄　二百七十六、南の島（臺南放送局）唄　二百七十七、南の島（臺南放送局）唄　二百七十八、南の島（臺南放送局）唄　二百七十九、南の島（臺南放送局）唄　二百八十、南の島（臺南放送局）唄　二百八十一、南の島（臺南放送局）唄　二百八十二、南の島（臺南放送局）唄　二百八十三、南の島（臺南放送局）唄　二百八十四、南の島（臺南放送局）唄　二百八十五、南の島（臺南放送局）唄　二百八十六、南の島（臺南放送局）唄　二百八十七、南の島（臺南放送局）唄　二百八十八、南の島（臺南放送局）唄　二百八十九、南の島（臺南放送局）唄　二百九十、南の島（臺南放送局）唄　二百九十一、南の島（臺南放送局）唄　二百九十二、南の島（臺南放送局）唄　二百九十三、南の島（臺南放送局）唄　二百九十四、南の島（臺南放送局）唄　二百九十五、南の島（臺南放送局）唄　二百九十六、南の島（臺南放送局）唄　二百九十七、南の島（臺南放送局）唄　二百九十八、南の島（臺南放送局）唄　二百九十九、南の島（臺南放送局）唄　三百、南の島（臺南放送局）唄　三百一、南の島（臺南放送局）唄　三百二、南の島（臺南放送局）唄　三百三、南の島（臺南放送局）唄　三百四、南の島（臺南放送局）唄　三百五、南の島（臺南放送局）唄　三百六、南の島（臺南放送局）唄　三百七、南の島（臺南放送局）唄　三百八、南の島（臺南放送局）唄　三百九、南の島（臺南放送局）唄　三百十、南の島（臺南放送局）唄　三百十一、南の島（臺南放送局）唄　三百十二、南の島（臺南放送局）唄　三百十三、南の島（臺南放送局）唄　三百十四、南の島（臺南放送局）唄　三百十五、南の島（臺南放送局）唄　三百十六、南の島（臺南放送局）唄　三百十七、南の島（臺南放送局）唄　三百十八、南の島（臺南放送局）唄　三百十九、南の島（臺南放送局）唄　三百二十、南の島（臺南放送局）唄　三百二十一、南の島（臺南放送局）唄　三百二十二、南の島（臺南放送局）唄　三百二十三、南の島（臺南放送局）唄　三百二十四、南の島（臺南放送局）唄　三百二十五、南の島（臺南放送局）唄　三百二十六、南の島（臺南放送局）唄　三百二十七、南の島（臺南放送局）唄　三百二十八、南の島（臺南放送局）唄　三百二十九、南の島（臺南放送局）唄　三百三十、南の島（臺南放送局）唄　三百三十一、南の島（臺南放送局）唄　三百三十二、南の島（臺南放送局）唄　三百三十三、南の島（臺南放送局）唄　三百三十四、南の島（臺南放送局）唄　三百三十五、南の島（臺南放送局）唄　三百三十六、南の島（臺南放送局）唄　三百三十七、南の島（臺南放送局）唄　三百三十八、南の島（臺南放送局）唄　三百三十九、南の島（臺南放送局）唄　三百四十、南の島（臺南放送局）唄　三百四十一、南の島（臺南放送局）唄　三百四十二、南の島（臺南放送局）唄　三百四十三、南の島（臺南放送局）唄　三百四十四、南の島（臺南放送局）唄　三百四十五、南の島（臺南放送局）唄　三百四十六、南の島（臺南放送局）唄　三百四十七、南の島（臺南放送局）唄　三百四十八、南の島（臺南放送局）唄　三百四十九、南の島（臺南放送局）唄　三百五十、南の島（臺南放送局）唄　三百五十一、南の島（臺南放送局）唄　三百五十二、南の島（臺南放送局）唄　三百五十三、南の島（臺南放送局）唄　三百五十四、南の島（臺南放送局）唄　三百五十五、南の島（臺南放送局）唄　三百五十六、南の島（臺南放送局）唄　三百五十七、南の島（臺南放送局）唄　三百五十八、南の島（臺南放送局）唄　三百五十九、南の島（臺南放送局）唄　三百六十、南の島（臺南放送局）唄　三百六十一、南の島（臺南放送局）唄　三百六十二、南の島（臺南放送局）唄　三百六十三、南の島（臺南放送局）唄　三百六十四、南の島（臺南放送局）唄　三百六十五、南の島（臺南放送局）唄　三百六十六、南の島（臺南放送局）唄　三百六十七、南の島（臺南放送局）唄　三百六十八、南の島（臺南放送局）唄　三百六十九、南の島（臺南放送局）唄　三百七十、南の島（臺南放送局）唄　三百七十一、南の島（臺南放送局）唄　三百七十二、南の島（臺南放送局）唄　三百七十三、南の島（臺南放送局）唄　三百七十四、南の島（臺南放送局）唄　三百七十五、南の島（臺南放送局）唄　三百七十六、南の島（臺南放送局）唄　三百七十七、南の島（臺南放送局）唄　三百七十八、南の島（臺南放送局）唄　三百七十九、南の島（臺南放送局）唄　三百八十、南の島（臺南放送局）唄　三百八十一、南の島（臺南放送局）唄　三百八十二、南の島（臺南放送局）唄　三百八十三、南の島（臺南放送局）唄　三百八十四、南の島（臺南放送局）唄　三百八十五、南の島（臺南放送局）唄　三百八十六、南の島（臺南放送局）唄　三百八十七、南の島（臺南放送局）唄　三百八十八、南の島（臺南放送局）唄　三百八十九、南の島（臺南放送局）唄　三百九十、南の島（臺南放送局）唄　三百九十一、南の島（臺南放送局）唄　三百九十二、南の島（臺南放送局）唄　三百九十三、南の島（臺南放送局）唄　三百九十四、南の島（臺南放送局）唄　三百九十五、南の島（臺南放送局）唄　三百九十六、南の島（臺南放送局）唄　三百九十七、南の島（臺南放送局）唄　三百九十八、南の島（臺南放送局）唄　三百九十九、南の島（臺南放送局）唄　四百、南の島（臺南放送局）唄　四百一、南の島（臺南放送局）唄　四百二、南の島（臺南放送局）唄　四百三、南の島（臺南放送局）唄　四百四、南の島（臺南放送局）唄　四百五、南の島（臺南放送局）唄　四百六、南の島（臺南放送局）唄　四百七、南の島（臺南放送局）唄　四百八、南の島（臺南放送局）唄　四百九、南の島（臺南放送局）唄　四百十、南の島（臺南放送局）唄　四百十一、南の島（臺南放送局）唄　四百十二、南の島（臺南放送局）唄　四百十三、南の島（臺南放送局）唄　四百十四、南の島（臺南放送局）唄　四百十五、南の島（臺南放送局）唄　四百十六、南の島（臺南放送局）唄　四百十七、南の島（臺南放送局）唄　四百十八、南の島（臺南放送局）唄　四百十九、南の島（臺南放送局）唄　四百二十、南の島（臺南放送局）唄　四百二十一、南の島（臺南放送局）唄　四百二十二、南の島（臺南放送局）唄　四百二十三、南の島（臺南放送局）唄　四百二十四、南の島（臺南放送局）唄　四百二十五、南の島（臺南放送局）唄　四百二十六、南の島（臺南放送局）唄　四百二十七、南の島（臺南放送局）唄　四百二十八、南の島（臺南放送局）唄　四百二十九、南の島（臺南放送局）唄　四百三十、南の島（臺南放送局）唄　四百三十一、南の島（臺南放送局）唄　四百三十二、南の島（臺南放送局）唄　四百三十三、南の島（臺南放送局）唄　四百三十四、南の島（臺南放送局）唄　四百三十五、南の島（臺南放送局）唄　四百三十六、南の島（臺南放送局）唄　四百三十七、南の島（臺南放送局）唄　四百三十八、南の島（臺南放送局）唄　四百三十九、南の島（臺南放送局）唄　四百四十、南の島（臺南放送局）唄　四百四十一、南の島（臺南放送局）唄　四百四十二、南の島（臺南放送局）唄　四百四十三、南の島（臺南放送局）唄　四百四十四、南の島（臺南放送局）唄　四百四十五、南の島（臺南放送局）唄　四百四十六、南の島（臺南放送局）唄　四百四十七、南の島（臺南放送局）唄　四百四十八、南の島（臺南放送局）唄　四百四十九、南の島（臺南放送局）唄　四百五十、南の島（臺南放送局）唄　四百五十一、南の島（臺南放送局）唄　四百五十二、南の島（臺南放送局）唄　四百五十三、南の島（臺南放送局）唄　四百五十四、南の島（臺南放送局）唄　四百五十五、南の島（臺南放送局）唄　四百五十六、南の島（臺南放送局）唄　四百五十七、南の島（臺南放送局）唄　四百五十八、南の島（臺南放送局）唄　四百五十九、南の島（臺南放送局）唄　四百六十、南の島（臺南放送局）唄　四百六十一、南の島（臺南放送局）唄　四百六十二、南の島（臺南放送局）唄　四百六十三、南の島（臺南放送局）唄　四百六十四、南の島（臺南放送局）唄　四百六十五、南の島（臺南放送局）唄　四百六十六、南の島（臺南放送局）唄　四百六十七、南の島（臺南放送局）唄　四百六十八、南の島（臺南放送局）唄　四百六十九、南の島（臺南放送局）唄　四百七十、南の島（臺南放送局）唄　四百七十一、南の島（臺南放送局）唄　四百七十二、南の島（臺南放送局）唄　四百七十三、南の島（臺南放送局）唄　四百七十四、南の島（臺南放送局）唄　四百七十五、南の島（臺南放送局）唄　四百七十六、南の島（臺南放送局）唄　四百七十七、南の島（臺南放送局）唄　四百七十八、南の島（臺南放送局）唄　四百七十九、南の島（臺南放送局）唄　四百八十、南の島（臺南放送局）唄　四百八十一、南の島（臺南放送局）唄　四百八十二、南の島（臺南放送局）唄　四百八十三、南の島（臺南放送局）唄　四百八十四、南の島（臺南放送局）唄　四百八十五、南の島（臺南放送局）唄　四百八十六、南の島（臺南放送局）唄　四百八十七、南の島（臺南放送局）唄　四百八十八、南の島（臺南放送局）唄　四百八十九、南の島（臺南放送局）唄　四百九十、南の島（臺南放送局）唄　四百九十一、南の島（臺南放送局）唄　四百九十二、南の島（臺南放送局）唄　四百九十三、南の島（臺南放送局）唄　四百九十四、南の島（臺南放送局）唄　四百九十五、南の島（臺南放送局）唄　四百九十六、南の島（臺南放送局）唄　四百九十七、南の島（臺南放送局）唄　四百九十八、南の島（臺南放送局）唄　四百九十九、南の島（臺南放送局）唄　五百、南の島（臺南放送局）唄　五百一、南の島（臺南放送局）唄　五百二、南の島（臺南放送局）唄　五百三、南の島（臺南放送局）唄　五百四、南の島（臺南放送局）唄　五百五、南の島（臺南放送局）唄　五百六、南の島（臺南放送局）唄　五百七、南の島（臺南放送局）唄　五百八、南の島（臺南放送局）唄　五百九、南の島（臺南放送局）唄　五百十、南の島（臺南放送局）唄　五百十一、南の島（臺南放送局）唄　五百十二、南の島（臺南放送局）唄　五百十三、南の島（臺南放送局）唄　五百十四、南の島（臺南放送局）唄　五百十五、南の島（臺南放送局）唄　五百十六、南の島（臺南放送局）唄　五百十七、南の島（臺南放送局）唄　五百十八、南の島（臺南放送局）唄　五百十九、南の島（臺南放送局）唄　五百二十、南の島（臺南放送局）唄　五百二十一、南の島（臺南放送局）唄　五百二十二、南の島（臺南放送局）唄　五百二十三、南の島（臺南放送局）唄　五百二十四、南の島（臺南放送局）唄　五百二十五、南の島（臺南放送局）唄　五百二十六、南の島（臺南放送局）唄　五百二十七、南の島（臺南放送局）唄　五百二十八、南の島（臺南放送局）唄　五百二十九、南の島（臺南放送局）唄　五百三十、南の島（臺南放送局）唄　五百三十一、南の島（臺南放送局）唄　五百三十二、南の島（臺南放送局）唄　五百三十三、南の島（臺南放送局）唄　五百三十四、南の島（臺南放送局）唄　五百三十五、南の島（臺南放送局）唄　五百三十六、南の島（臺南放送局）唄　五百三十七、南の島（臺南放送局）唄　五百三十八、南の島（臺南放送局）唄　五百三十九、南の島（臺南放送局）唄　五百四十、南の島（臺南放送局）唄　五百四十一、南の島（臺南放送局）唄　五百四十二、南の島（臺南放送局）唄　五百四十三、南の島（臺南放送局）唄　五百四十四、南の島（臺南放送局）唄　五百四十五、南の島（臺南放送局）唄　五百四十六、南の島（臺南放送局）唄　五百四十七、南の島（臺南放送局）唄　五百四十八、南の島（臺南放送局）唄　五百四十九、南の島（臺南放送局）唄　五百五十、南の島（臺南放送局）唄　五百五十一、南の島（臺南放送局）唄　五百五十二、南の島（臺南放送局）唄　五百五十三、南の島（臺南放送局）唄　五百五十四、南の島（臺南放送局）唄　五百五十五、南の島（臺南放送局）唄　五百五十六、南の島（臺南放送局）唄　五百五十七、南の島（臺南放送局）唄　五百五十八、南の島（臺南放送局）唄　五百五十九、南の島（臺南放送局）唄　五百六十、南の島（臺南放送局）唄　五百六十一、南の島（臺南放送局）唄　五百六十二、南の島（臺南放送局）唄　五百六十三、南の島（臺南放送局）唄　五百六十四、南の島（臺南放送局）唄　五百六十五、南の島（臺南放送局）唄　五百六十六、南の島（臺南放送局）唄　五百六十七、南の島（臺南放送局）唄　五百六十八、南の島（臺南放送局）唄　五百六十九、南の島（臺南放送局）唄　五百七十、南の島（臺南放送局）唄　五百七十一、南の島（臺南放送局）唄　五百七十二、南の島（臺南放送局）唄　五百七十三、南の島（臺南放送局）唄　五百七十四、南の島（臺南放送局）唄　五百七十五、南の島（臺南放送局）唄　五百七十六、南の島（臺南放送局）唄　五百七十七、南の島（臺南放送局）唄　五百七十八、南の島（臺南放送局）唄　五百七十九、南の島（臺南放送局）唄　五百八十、南の島（臺南放送局）唄　五百八十一、南の島（臺南放送局）唄　五百八十二、南の島（臺南放送局）唄　五百八十三、南の島（臺南放送局）唄　五百八十四、南の島（臺南放送局）唄　五百八十五、南の島（臺南放送局）唄　五百八十六、南の島（臺南放送局）唄　五百八十七、南の島（臺南放送局）唄　五百八十八、南の島（臺南放送局）唄　五百八十九、南の島（臺南放送局）唄　五百九十、南の島（臺南放送局）唄　五百九十一、南の島（臺南放送局）唄　五百九十二、南の島（臺南放送局）唄　五百九十三、南の島（臺南放送局）唄　五百九十四、南の島（臺南放送局）唄　五百九十五、南の島（臺南放送局）唄　五百九十六、南の島（臺南放送局）唄　五百九十七、南の島（臺南放送局）唄　五百九十八、南の島（臺南放送局）唄　五百九十九、南の島（臺南放送局）唄　六百、南の島（臺南放送局）唄　六百一、南の島（臺南放送局）唄　六百二、南の島（臺南放送局）唄　六百三、南の島（臺南放送局）唄　六百四、南の島（臺南放送局）唄　六百五、南の島（臺南放送局）唄　六百六、南の島（臺南放送局）唄　六百七、南の島（臺南放送局）唄　六百八、南の島（臺南放送局）唄　六百九、南の島（臺南放送局）唄　六百十、南の島（臺南放送局）唄　六百十一、南の島（臺南放送局）唄　六百十二、南の島（臺南放送局）唄　六百十三、南の島（臺南放送局）唄　六百十四、南の島（臺南放送局）唄　六百十五、南の島（臺南放送局）唄　六百十六、南の島（臺南放送局）唄　六百十七、南の島（臺南放送局）唄　六百十八、南の島（臺南放送局）唄　六百十九、南の島（臺南放送局）唄　六百二十、南の島（臺南放送局）唄　六百二十一、南の島（臺南放送局）唄　六百二十二、南の島（臺南放送局）唄　六百二十三、南の島（臺南放送局）唄　六百二十四、南の島（臺南放送局）唄　六百二十五、南の島（臺南放送局）唄　六百二十六、南の島（臺南放送局）唄　六百二十七、南の島（臺南放送局）唄　六百二十八、南の島（臺南放送局）唄　六百二十九、南の島（臺南放送局）唄　六百三十、南の島（臺南放送局）唄　六百三十一、南の島（臺南放送局）唄　六百三十二、南の島（臺南放送局）唄　六百三十三、南の島（臺南放送局）唄　六百三十四、南の島（臺南放送局）唄　六百三十五、南の島（臺南放送局）唄　六百三十六、南の島（臺南放送局）唄　六百三十七、南の島（臺南放送局）唄　六百三十八、南の島（臺南放送局）唄　六百三十九、南の島（臺南放送局）唄　六百四十、南の島（臺南放送局）唄　六百四十一、南の島（臺南放送局）唄　六百四十二、南の島（臺南放送局）唄　六百四十三、南の島（臺南放送局）唄　六百四十四、南の島（臺南放送局）唄　六百四十五、南の島（臺南放送局）唄　六百四十六、南の島（臺南放送局）唄　六百四十七、南の島（臺南放送局）唄　六百四十八、南の島（臺南放送局）唄　六百四十九、南の島（臺南放送局）唄　六百五十、南の島（臺南放送局）唄　六百五十一、南の島（臺南放送局）唄　六百五十二、南の島（臺南放送局）唄　六百五十三、南の島（臺南放送局）唄　六百五十四、南の島（臺南放送局）唄　六百五十五、南の島（臺南放送局）唄　六百五十六、南の島（臺南放送局）唄　六百五十七、南の島（臺南放送局）唄　六百五十八、南の島（臺南放送局）唄　六百五十九、南の島（臺南放送局）唄　六百六十、南の島（臺南放送局）唄　六百六十一、南の島（臺南放送局）唄　六百六十二、南の島（臺南放送局）唄　六百六十三、南の島（臺南放送局）唄　六百六十四、南の島（臺南放送局）唄　六百六十五、南の島（臺南放送局）唄　六百六十六、南の島（臺南放送局）唄　六百六十七、南の島（臺南放送局）唄　六百六十八、南の島（臺南放送局）唄　六百六十九、南の島（臺南放送局）唄　六百七十、南の島（臺南放送局）唄　六百七十一、南の島（臺南放送局）唄　六百七十二、南の島（臺南放送局）唄　六百七十三、南の島（臺南放送局）唄　六百七十四、南の島（臺南放送局）唄　六百七十五、南の島（臺南放送局）唄　六百七十六、南の島（臺南放送局）唄　六百七十七、南の島（臺南放送局）唄　六百七十八、南の島（臺南放送局）唄　六百七十九、南の島（臺南放送局）唄　六百八十、南の島（臺南放送局）唄　六百八十一、南の島（臺南放送局）唄　六百八十二、南の島（臺南放送局）唄　六百八十三、南の島（臺南放送局）唄　六百八十四、南の島（臺南放送局）唄　六百八十五、南の島（臺南放送局）唄　六百八十六、南の島（臺南放送局）唄　六百八十七、南の島（臺南放送局）唄　六百八十八、南の島（臺南放送局）唄　六百八十九、南の島（臺南放送局）唄　六百九十、南の島（臺南放送局）唄　六百九十一、南の島（臺南放送局）唄　六百九十二、南の島（臺南放送局）唄　六百九十三、南の島（臺南放送局）唄　六百九十四、南の島（臺南放送局）唄　六百九十五、南の島（臺南放送局）唄　六百九十六、南の島（臺南放送局）唄　六百九十七、南の島（臺南放送局）唄　六百九十八、南の島（臺南放送局）唄　六百九十九、南の島（臺南放送局）唄　七百、南の島（臺南放送局）唄　七百一、南の島（臺南放送局）唄　七百二、南の島（臺南放送局）唄　七百三、南の島（臺南放送局）唄　七百四、南の島（臺南放送局）唄　七百五、南の島（臺南放送局）唄　七百六、南の島（臺南放送局）唄　七百七、南の島（臺南放送局）唄　七百八、南の島（臺南放送局）唄　七百九、南の島（臺南放送局）唄　七百十、南の島（臺南放送局）唄　七百十一、南の島（臺南放送局）唄　七百十二、南の島（臺南放送局）唄　七百十三、南の島（臺南放送局）唄　七百十四、南の島（臺南放送局）唄　七百十五

臺北信用組合總會

混故組合問題で一波亂

理事は全部重任と決す

臺北信用組合の第二十二回總會は大體夕刊所報の通りであるが尚剰餘金の處分、其他に關する諸議題過半を終了すれば次の如くであつた

報告事項　を質疑なく承認、決議事項に入り、第一號の剰餘金處分案について議長は別項の如く提案を說明し意見に諮れば

△新垣氏　原案通り賛成したい、尚次で先般組合員の意見として組合の利益を增加しても貸付利息を下げよとの希望であつたが、我々は個々の立場より全體の利益となるやう經營の方針を確立されたい…

と發言を求め

△劍屋總長　當組合の貸付は市內の產業組合中一番低率な利率であることを承知されたい…と前置して除け組合の出現を受け、之に對し總長は左記要旨を以て答辯した

保の證明を要し、御意見として承はりをく旨述べ、次で

決議事項　に入り、第一號の剰餘金處分案について議長は別項の如く提案を說明し意見に諮れば

△新垣氏　原案通り賛成したい、尚次で先般組合員の意見として組合の利益を增加しても貸付利息を下げよとの希望であつたが、我々は個々の立場より全體の利益となるやう經營の方針を確立されたい…

と發言を求め

△劍屋總長　當組合の貸付は市內の產業組合中一番低率な利率であることを承知されたい…と前置して

處分の件　は劍屋議長より前年通りに可決、組合員除名

別動體と　して活躍せんとする臺北貸座信用利用組合の趣旨を按ずれば何ら異議もなく永井氏の賛成演說で全員賛成之に次で臺北の件は、臺北貸座信用組合については將軍に賛成せるも組合承認の件は、臺北貸座信用組合を認めたき役員案に對しては根據薄弱にて

△大山氏　假設信組は照會官廳の相互救濟機關にて而も創立日尚淺く、かかる際特にわが組合が之を救濟的に進出せねばならぬと云ふ理由の緊急性を認めない、溫故信用組合を認めたき役員案に對しては根據薄弱にて

△大山氏　假設信組は照會官廳の相互救濟機關にて而も創立日尚淺く、かかる際特にわが組合が之を救濟的に進出せねばならぬと云ふ理由の緊急性を認めない、溫故信用組合を認めたき役員案に對しては根據薄弱にて

△永井氏　溫故信組の設立は、臺北貸座信用組合の發展を阻害するものではない、寧ろ臺北貸座信用組合の發展を助長するものと信ずる、故に原案に賛成する

△大山氏　假設信組は照會官廳の相互救濟機關にて而も創立日尚淺く、かかる際特にわが組合が之を救濟的に進出せねばならぬと云ふ理由の緊急性を認めない、溫故信用組合を認めたき役員案に對しては根據薄弱にて

△永井氏　溫故信組の設立は、臺北貸座信用組合の發展を阻害するものではない、寧ろ臺北貸座信用組合の發展を助長するものと信ずる、故に原案に賛成する

反對論を　まくし立てればそこに共鳴者を發する者多く賛成者側から

△永井氏　數箇五々と云つたがそんなことは絕對無い、同組合は愚昧を啓發指導として之に貸付けるもので絕對有利且つ安全である今日恩給生活者はそれを擔保に高利貸の餌食になりつつある、必らずしも同情からでなく安全且つ有利であることは役員側も充分調査確信の上と存する、各位の一致賛成を望みたい

と發言を切り、之も水掛論を恐れ綿密賛否の表明が皆無かと見られるに至り、議長の採決が注目されたが、議長は

手際良く　も、本件の內臺北貸座信組に關する點は溫故信組と探決方針に基き、溫故信組の美しい一致の賛同であつたからこれを可決し溫故信組の方は數箇條あるが之を撤回すると述べ割るはかりの拍手裡に決定した、次で役員改選の件は理事の重任を望む聲を聽いて、御意見として

決議事項　に入り、第一號の剰餘金處分案について議長は別項の如く提案を說明し意見に諮れば

△新垣氏　原案通り賛成したい、尚次で先般組合員の意見として組合の利益を增加しても貸付利息を下げよとの希望であつたが、我々は個々の立場より全體の利益となるやう經營の方針を確立されたい…

と發言を求め

△劍屋總長　當組合の貸付は市內の產業組合中一番低率な利率であることを承知されたい…と前置して

處分の件　は劍屋議長より前年通りに可決、組合員除名

別動體と　して活躍せんとする臺北貸座信用利用組合の趣旨を按ずれば何ら異議もなく永井氏の賛成演說で全員賛成之に次で臺北の件は、臺北貸座信用組合を認めたき役員案に對しては根據薄弱にて

由緒深き國寶物語 (3)

その故事來歴

——因緣傳說をさぐる

手に入れたものである。

彫刻工藝の巻

彫刻と工藝の國寶はその數二千二百八十一點で全國寶の約半分はこれに依つて占められてゐるといつてもよい位に數が多い。然し彫刻といつても日光の眠り猫のやうに建物にくつついてゐるものは建物として指定されてゐるのであるから、國寶になつてゐる彫刻工藝は主として佛像が多いのである。この彫刻工藝品の國寶の中で一番大きなものは矢張り奈良の大佛である。この金印といふのは日本で出來たものであるかといふと黒田千劍家に所藏されてゐる金の印である。福岡縣の志賀の島の叢中に埋れてゐたのが同地方の漁師が漁撈から拾つたものださうだ。

大きさは一寸位で縱八分位一度二顆の彫像印手位しかない金の印である。その中の文字に、漢委奴國王とやてもはつきりと記されてゐる。これは何の爲めに作られて何の爲めに志賀の島の叢岸に埋れて居たのかそれにはつきりとは解らないけれども傳說として傳へられてゐる數多の面白い話もあるがこれは繰り合くなるからここでは省略して讀者の想像に任せることにする。

春聯帖

昭和乙亥

石上三年錄

（王一首略）

醫戸　中野　常春

九重のみ池のみぎは立あさる田鶴も千代をや祝ふらむ

池水にうつれる影を友と見てみぎはの田鶴や音によばふ覺乙亥　新年

亥の子ふみ年は來向ふましくらにすすみぞゆかむ年は來むふ

札幌　能本　豐記

かはらぬをときことしてこのとしもおなじほぎごいひかはしけり

彫化　畑　忠太郎

香門拭觀

幾代もかへぬ緑のかどまつを立てことほぐけふそうれしき

泪　息

君ぬれど月雪花をともとしてあそびゆくまはすくなかりけり

◇

つまづきし跡をかすがと顧みて六十六とせのさかは來にけり

金澤　土方益三郎

みづすめる池を餌に朝な夕な羽なみよそほふ鷗そけだかき

東京　平井卯之助

なみあひに鯉のをどれば はねしてたづ舞ひあそぶ池の汀に

高雄　平井　桑一

非常時の玄年を迎へて

挙しあらば雄たけり立たむ猪もあら野のどこにねむる御代かな

宮國　醉崎和次郎

萬代の龜の御池のかたほとりき吸くもうれし鶴のひとむら

紀州高野山　畑川　本瑞

勅題　池邊鶴

あら玉の年たちかへる池の邊をのどかにあそぶ鶴の一むれ

身の上相談

相談相手もなく思案に餘る問題上の問題で個相談になりたい方は手紙で身の上相談係宛御申出下さい。電話や面會は御斷りします

未知な彼への同情が愛となる

私は二十を過ぎた高等女學校の卒業生です。且つ或る銀行に勤めてをります。私の親友であつた人の家が或る事情で破產しましたが、其の娘の兄さんといふのは某學校に在學してをり、私と勉强家で二度よりも實際同樣のつきあひ方をしてゐるので私にお友達からその惡口を聞き自分の兄に對する樣な感情を持つて居ります。その中から少しづつ變つてゐました。無論私はお友達の兄さんには一度逢つてありませんでした。しかし手紙の往復の間に私は彼の感情を思ふ樣になりました。その感情からも「二度逢ひたい人が出來たら逢つて下さるといふのは結婚の事でなければならない。何もかくさず貴女の本當の氣持を知らせて下さい」と言つて來ました。私もたうとう逢つてみれば、今の中にあなたは結婚があればむしろそれに專心して下さいと言つて來ました。私は彼が結婚しました、直ぐ逢ひたいといふので行つて逢ひました。それ以來私は一時だつて彼の事を忘れる事はできません。しかし彼は結婚を拒んでゐます。食べる事さへ出來ぬ今の彼女に結婚など考へられないといふのです。私は何年でも待つと言ひますが彼は獨身主義でゆくと言ひます。私は此儘では死んでしまひます。愛する彼のため彼と他人と結婚した方がよいでせうか、一生獨立して彼女のために身を捧げたものでせうか、全く身寄りのない私が果してそれが出來るでせうか、結婚して彼を慰めたい、淚ぐましい愛情をもつて彼を慰めたい、孤兒の様な私、寂寥はあつても一人娘ときいて改立になつて了ひます、戸主で親に行けるでせうか、どうか身寄りの無い一女生をお導き下さいませ（岡山一女性）

結婚よりも彼には就職が先

一家の安否に關してあたかも夜に擧行した同情が戀愛となり愛となつたもので美しい花が咲いたと同樣と保は考へてゐます、結婚の問題は彼としては從前の問題でなく第一に職を求め一家を更生させねばならぬのです。男の彼にはそれだけの責任も意氣もあるはずです。それですから あなたは此際徐ろに彼に結婚を迫らぬのがよいです。夫よりも彼を勵まして早く更生の途を求め一定の職を得る樣にさせねばなりません、あなたのお安泰た る彼の妹と共に充分彼を勵まし 勇氣を出させて適當な職をつかむ樣におさせなさい、結婚はその上のことです、彼が最男であなたが戸主でも二人の愛と結婚とが絶對のものなら廢戸して彼の許へ嫁入る方法もあります、それですから 彼があなたをよく理解し且つよく愛してるるか否はお友達を通してよく聽つて置かねばなりません、若し彼に眞の愛が無い樣なら當然あなたとしては別の事を考へねばなりません、身寄りが無い、と卑されるが、あなたが美しい心の女性で正しく純な心持ちで與へ難事にたつさはるならば自然に周圍以上に尊重に心配して下さる人も出て來ませう 時ぬ心遣ひをせず、よく彼の心を確かめた上で今後の處置をおとりなさい。（榮）

喜なかだち

女事務員　入用　履歴書提出持參採否當日通知　京橋區銀座四丁目　東洋レース會社

女中入用　本人面談の事　佐久間町二の六　河　東

轉業の喫茶店きの喫茶所カフエ　京橋區三丁目銀座四丁目七番　前田吉助

女中入用

本人面談の事

佐久間町二の六　河　東

轉業の喫茶店きの喫茶所カフエ

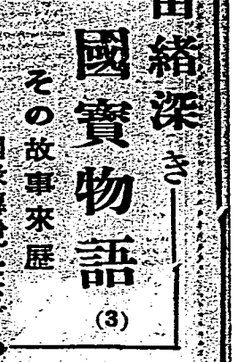
京橋區三丁目銀座四丁目七番　前田吉助

女事務員

入用履歴書持參採否當日通知　京橋區銀座四丁目　東洋レース會社

求職　一件一回　賣買貸借媒介　其他一回　賣買七拾錢　匿名信一回　名信一回　賣買

ポカ〳〵温まる飲み物



寒い夜中に幾度も小便に起る人が體内の活氣を強めると近い小便が遠くなり夜分温かく安眠できる

外出

先でも小便が近くて困つたり、殊に夜分は屢々小便を催ふして寒い夜中に幾度も起きる人は、睡眠不足になり、翌朝頭がボンヤリし氣力が衰へて、とかく病氣に罹り易いものである。

神經

養生もせず等閑にして居ると、往々泌尿神經が不隨になつて、遺尿症を起したり、膀胱や腎臓を惡くすることがあるが、小便の近い人は、身體が貧血して冷え込む程、益々小便が近くなる、小便の近いのは、體内が冷えて活氣乏しく内臓の生理的機能が大いに衰へて居る爲である、かゝる人が、近頃非常に評判の良い、滋養强壯劑の養命酒を朝晩少しづゝ愛飲して居ると

不思議に

身體の眞からポカ〳〵温まつて夜分など氣持ちよくグツスリ安眠できるので近い小便も次第に遠くなり、是程よいものはないと、喜こび貴とばれて居りますから、何誰も一度お試しになれば、成程よいと眞實なる效驗を得られます。

意外な

效驗を與ふる

養命酒

梁山仙藥にして、芳香美味上等の葡萄酒より もうまいです。發賣元の山形縣酒田市一番地養命酒本舗へ宛て御取寄せ下さい。

無料進呈

意外な

效驗を與ふる

養命酒

梁山仙藥にして、芳香美味上等の葡萄酒より もうまいです。發賣元の山形縣酒田市一番地養命酒本舗へ宛て御取寄せ下さい。

喘息及び一般咳嗽の鎭靜に

喘息の三原因に迫まる新療法！

喘息發作を鎭めるには喘息の發作を傳導する迷走神經を痲痺するか、又は迷走神經に對抗する交感神經の活動を高めるかの何れかの方法よりありません。

アスモンは第一に刺戟傳導を阻止するアトロピンを、第二に交感神經の働きを高めるエフエドリンを、第三に痰の溶出を促すサポニンを含む植物三つよりその全有効成分を抽出し、而も極力副作用の發現を阻止し、且つ効力を的確にする特殊の化學的操作を施したものであります。

故に喘息に對するアスモンは單に一方面より作用する藥劑と異なり、喘息の根原に表裏及び側面より相呼應して作用しますから激しい發作も見事に鎭靜し苦痛は除かれます。

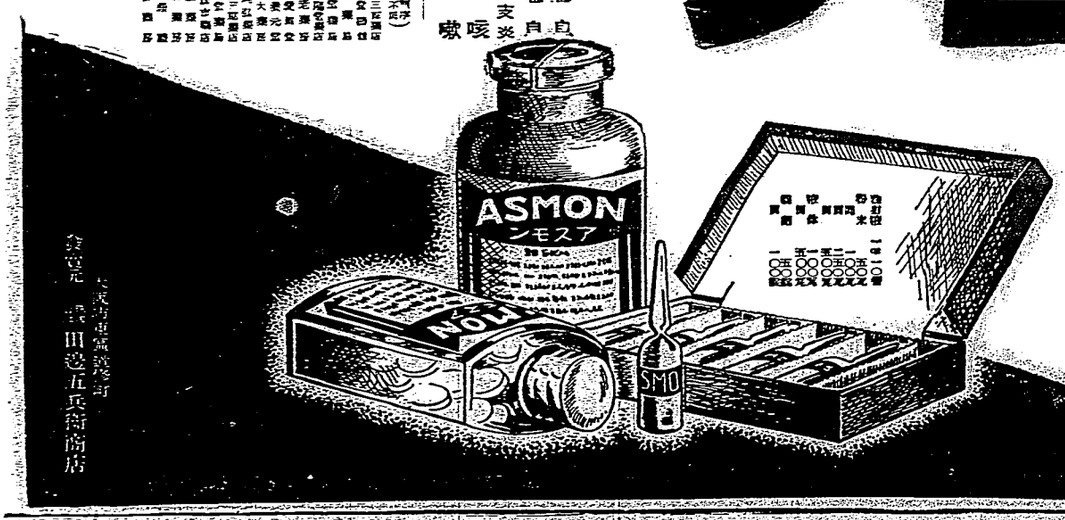
新發にアスモンは喘息にも確實な効果がある程ですから一般の咳嗽には少量で速やかに奏効するは勿論であります。

文獻說明書進呈

喘息及び一般咳嗽の鎭靜に

強力鎭咳劑 アスモン

氣管支喘息
心臟性喘息
乾性退性氣管支炎
百日咳
一般咳嗽



台灣特約販賣店（賣藥）

AS 133

冷え性て近い小用も遠くなる

東京市芝區　大川たつ子

私は幼少の頃は非常に丈夫でありましたが、二十歳から身體に變調を來し、月經が少くなりましたので、數回治療を受けましたが、四季を通じて一年中手足が冷え、夏でも足袋が離せず、冬は二三回おきに一回位になりましたので、益々冷え性となり

議院生活四十二年
尾崎翁を院議で表彰
特別光輝ある議席を與へよ
各派に意見もち上る

【東京二十二日發】憲政史上に偉大なる功績を殘してゐる尾崎行雄氏に對し衆議院全體の感謝をもつて敬意を表し併せて特別の表彰を爲すべきことは既報の如くであるが、右に關し各派有志間に於ては、表彰の方法に關し種々協議を重ねてゐたが、愈〻二十三日の衆議院本會議に於て、左の如き決議案を提出することゝなつた、即ち

一、衆議院は尾崎行雄君が明治二十三年第一回帝國議會以來、連續當選して今日に至り、其の間終始一貫、憲政の爲に盡瘁し、特に第六十七議會に於ては、其の功績顯著なるものあるを認む

一、衆議院は尾崎行雄君が現在の衆議院に於て、唯一人の憲政初期以來の代議士であり、且つ第十八回一度も滿選せず、勳績輝耀、四十二ヶ年六ヶ月といふ古參者である事實に鑑み、茲に特別の表彰を爲すことを決議す

右決議案は、二十二日の衆議院本會議に於て、全會一致を以て可決された、尾崎氏は、議場に於ける感謝狀贈呈式に參列し、感謝狀を受領した、尾崎氏は、

李王殿下登阿里山

自嘉義驛沿途展望風景

在奮起湖休憩所午餐後再發

李王垠殿下。(十二)日登阿里山。即服陸軍步兵中佐軍服。發嘉義。御泊所梧蔭養驛。由堀田總長前導乘阿里山線。殿下在車中。閱營林所概況書。及展望沿途風景。車抵見晴。下車數分。復乘車至交力坪驛。下車數分。復乘而發。同十一時二十五分安抵奮起湖驛。由佐營林所長代理前導。入御休憩所午餐。

午後。正午。復發過通哆囉鳴驛。漸覺冷氣。由車窓眺望新高山脈峰。及塔山大斷崖。風景甚佳。同十二時四十二分。抵十字路驛。遠望卓武野番社。驛前有番人出迎。今川知事說明。未幾車發。

殿下在奮起湖驛沿途樹林變化推移。及公學校上級生。多數伺候。入御休憩所午餐。

午後。正午。復發過通哆囉鳴驛。漸覺冷氣。由車窓眺望新高山脈峰。及塔山大斷崖。風景甚佳。同十二時四十二分。抵十字路驛。遠望卓武野番社。驛前有番人出迎。今川知事說明。未幾車發。

殿下在車中時常下問。經過本邊那驛。入溫帶林地域。紅檜大樹到處皆是。車抵二萬平驛。殿下由車窓。觀賞登立之塔山勝景。抵神木驛。觀神木。午後二時二十二分抵阿里山驛。台覽集材作業狀況云。

抵阿里山驛　觀集材作業

殿下午餐後。正午。復發過通哆囉鳴驛。漸覺冷氣。由車窓眺望新高山脈峰。及塔山大斷崖。風景甚佳。同十二時四十二分。抵十字路驛。遠望卓武野番社。驛前有番人出迎。今川知事說明。未幾車發。

練習艦隊　來月入基隆

遠洋航海途上之練習艦隊。訂來二月十九日。入基隆港。豫定二十二日。向某地出港云

臺中市協議會　定來廿五六日

臺中市昭和十年度豫算協議會。定來二十五、六兩日。開于市街樓上。因市區改正其他。重要議案不少云。

第三艦隊旗艦　廿七日入基隆港

二驅逐艦亦同時

百武中將引率之第三艦隊。陳止敬概況。次議事。報告八年度金山庄基本財產收支精算之件及八年度金山庄史員退職給與金遺族扶助料給與基金積立金收支精算之件。更移提出事項。八年度歲入出決算之件及濟間事項。十年度歲入出豫算之件。竝十年度庄稅賦課率之件。各議員提出意見。而全部照原案可決。安詮院都守訓示。議至午後零時二十分閉會。續開懇親宴。盡歡至午後三時散會。金山農業專修學校東京二十二日電。二十二日午前。貴族院本會議。岡田首相。施政方針演說如左。

帝國於東亞之地位。漸爲一般理解。帝國與諸友邦。親善關係。益加增進。既與隣接諸邦友好關係。帝國政府夙所努力。對於蘇俄。爲之發展滿洲國貫收北滿鐵道。其他各案。盡力解決。其就中華。深望其安定從速回復。關東亞大局。亦早覺醒。而與帝國竝分平和維持之重任。最近日華關係。稍見好轉傾向。責所喜慰日滿關係

首相演說施政方針　特重對滿關係

機關之調整。卽於前議會。得見豫算力贊。公布官制其他關係勅令。昨年十二月二十六日。遂於內閣。設對滿事務局。在滿帝國大使館。設關東局。期中央與現地。互相協力。俾滿洲國。健全發達。竝於各方面。獲得最大成果。現在兩國親善益深。東洋平和確保益固。不勝同慶之至。來關春四月。滿洲國皇帝陛下來朝。親訪天皇陛下之事。兩國國交上。意義實深。實所感激。而我國民。得歡迎隣邦元首機會。尤癸何加。帝國對外案

基隆商工信組總會　一般組會員非常和平

議案不上廿分間議了

既報基隆商工信川組合。去二十、二十一日午後二時。假基隆公會堂。開第十三回通常總會。組合員著席後。府築地金融課長代理。州眞室勸業課長。地主益銀。西村彰銀兩支店長。其他來賓臨席。先由范專務。宣告開會。次向來賓敘禮。乃報告組合員總數五百二十三名。出席者百三十六名。委任者百三十七名。達半數以上。總會成立。於是將昨年度事業狀況。詳細報告。次范專務。報告財產目錄。貸借對照。損益計算。剩餘金處分案等。工藤監事。報告監查確實。一同原案承認可決。卽配當金年七分。次本年度組合借入金十萬圓。本年度一組合員貸出金最高限度一萬圓（擴保七千圓信借三千圓）外農業倉庫證券及政府發行米穀證券擔保三千圓。取引銀行。準備金積立金。融通事業資金。組合員除名。(一)定款第七條變更。役員報酬及賞與。公益寄附。限一百圓以內。退職役員慰勞。一任理事及監事。以上全部原案贊成可決。次理事補選。一任組合長。指名銓衡。委員六名。別室銓衡結果。選顧欽賢名。(二)役員報酬及賞與。公益寄附。限一百圓以內。退職役員慰勞。一任理事及監事。以上全部原案贊成可決。次理事補選。一任組合長。指名銓衡。委員六名。別室銓衡結果。選顧欽賢名。

彰化市　協議會期　廿五六兩日

彰化市。昭和十年度第三回豫算協議會。訂來二十五六兩日。午前九時。開于市公會。而該豫算案付成本。二十一日由市役所送達各市協議會員。又會議參與員。浴助役。(一)減論十七萬九千餘圓。希望組合員。多々利用。有擔保物可借至一萬圓。利息日僅二錢八厘。至三時餘散會。同五時頃。役員等。更於高砂樓旅亭。招待來賓同七時頃盡歡而散云。

大圳補修　二十日通水

昭和七年起三箇年間。督府以六十萬圓補助費。繼續開辦。桃園大圳補修工事。昨年終了。其工事依火倉組之手。昨年十月二十日著手斷水工事以來。近始完了。二十日午前六時。一齊通水。中壢郡大崙監視區田中主任。與桃園郡大園庄埔心監視區赤崎主任對調。各區監視員有異動。

東北義捐金　七千六百

已爲設法發送

對于東北地方之冷害。一般希望由臺灣。贈寄附金。是故本社。特依寄附者便宜。將其芳名及金額。揭載于紙上。代爲辦理。至去十五日截止日。奇託本社之組合額。凡七千六百四十九圓四十一錢。合利息金十七圓二十一錢。計七千六百六十六圓六十二錢。二十二日。交文敎局社會課。執送金手續云。

臺北庶民信組　通常總會　事務所落成

臺北庶民信用組合。定來三十一日午後一時。將假鐵道旅館。開第七回定期總會。是日欲改選理事七名。監事二名。九年度彙剩餘金一萬一千餘圓。配利年六分。又昨年支出工費七千圓。新建組合事務所於市內都通。工事經已二萬七千圓。又昨年一月十七日。比一昨年同日。昨年反減四百萬圓。乃昨年來發行券之膨脹。實促臺灣經濟力之膨脹。第觀本年島內產業經濟界之事情。以後發行額。應不破二萬七千圓。

謀害養父女犯　受審之時卒倒

前報臺北州淡水郡淡水街三郎。年三十七。既如前報。其後查究。關聯于大成本。二十一日由市役所送達各市協議會員。又會議案付昨年。於基隆公會堂。開第三回豫算協議會。訂來二十五六兩日。午前九時。開于市公會。而該豫算案付大園庄埔心監視區赤崎主任對調。各區監視員有異動。

彰化市　協議會期　廿五六兩日

彰化市。昭和十年度第三回豫算協議會。訂來二十五六兩日。午前九時。開于市公會。而該豫算案付大園庄埔心監視區赤崎主任對調。各區監視員有異動。

米生產費　調查會延期

殖產局鈴木技師。身携米穀生產費調查會事務上京。同幹事會。十九日午前十時。開於官邸。二十四日擬再開。將審議朝鮮臺灣所查之案。於是豫定二十七日開催之總會。遂延誤於二月三日開催也。

深耕問題眞相　住民十數各手執鎌　小兒二十餘名參加

臺南州新營郡下看天田深耕問題。調查其眞相。去十二日午前十時。鹽糖社員久保吉次。于同郡柳營庄一五甲地。以新式深耕犁作業時。同庄部落民十數名。及小兒二十餘名各手執鎌棒。環繞其周圍妨害作業。久保將情報郡警察課。後原警部補。及受持台田巡查。急赴現場。見大人十數。小兒二十餘。各手執鎌。欲查此等就坐。張參議告山癩曰。本日下午。遺務邀到清源山報告之事。不知我意如何解決。山癩曰。我亦未便個人主張。明日開一參議會。從多數意以決定言之。司閘者入告。謂有人自清源鄉挑簪來。欲見總辦面皇

有煽動佃人形跡

林田內務部長談

林田內務部長。云此次事件。大地主劉明電君。熟知深耕犁效果。且對作業自前已承認。而惹出此種事件。殊不可思議。承認深耕犁作業。且經契約。而于其時期耕作物。常局不爲補助。亦經承諾。劉君對佃人。亦有十分諒解。如此次劉君聳動佃人。而失自己立場。由同君自初反對作業之處觀之。有煽動佃人形跡。

發拘引狀　應有理由

石橋官長談

因未接報告。無有可言。元來深耕犁作業。于產業開發上。異常有效果。而一部無知農民間有反對。似屬事實。如前有對合文都守。提出告訴之例。調查協定案文。訂來二月下旬在東京。正式經日滿俄三國代表簽印。北鐵交涉。自昭和八年六月二十六日。第一回正式會議交涉開始以來。會談四十回卽正式會議六。滿俄中間會商四。廣田游。兩民會談二十二。東鄉葛兩民會談八。費一年七月之歲月。漸見最後決定云。

院內閣議　對議會策

東京二十二日電。政府二十二日。將法律案。提出衆議院。卽一、昭和十年度歲入歲出總豫算案。竝昭和十年度各特別歲入歲出豫算案。一、豫算外要國

炭商外交行竊

基隆市寶町二番地住所不定張木生。年二十五。自大正年來。爲木炭商外交員。潛入東町舊基隆高女教諭加賀氏宅。竊取衣類。現金二百圓。且常入內地人宅。至最近五十餘回。事入基隆習齊藤。謝兩刑事之耳。遂被捕去。

三峽庄李氏　救濟細民

新進紳家三峽庄協議會員李梅樹氏。今其令堂古稀壽辰。節約冗費百圓。充爲細民救濟金。去十八日提交庄。當局處分。庄民嘉其篤志。

老農縊死

基隆郡平溪庄石底字白石腳十九番地。簸夫顏地。年六十三。因家貧苦。二十二日午前六時。縊死在自宅云。

犯人送檢察

既報東石郡灣內人陳丁賢。年三十五。與朴子街双溪口人陳營。年四十一。共謀竊取六腳庄大塗獅人侯棗之黃庚仔子一案。因陳營逃走中。與本黃兩刑事。向各方面搜查。至去四日檢舉到案。由澎川司法官取調結果。去十九日。連人帶案。移送嘉義檢察局究辦。

沙鹿　應援警衛

去二十日。李王垠殿下。視御臨臺中。是日大甲郡下警察多數前往應援警衛。至二十一晚。始解除歸庄所。

信組總會　大甲郡大肚信用組合通常總會

既報大甲郡沙鹿街。在新街益昌商行前。本欲造成一街路。因關係者異議。遂入暫停。闔因關係者異議。故庄當局。仍付之愿案。一帶田園。照舊農作云。

街路難改

嘉義

開總代會

嘉義郡小梅信用組合總代員會。去二十日午前十時開會。郡津田庶務課長。內海商工係主任臨席。全總代員六十名出席。江組合長事業報告後。移入事項審議。然反對派總代員。洎々質問。至午後三時。始得決議。理事五名滿任。投票改選結果。被反對派李番芝氏外四名當選。組合長另由理事中互選。最後津田庶務課長。內海訓示。然後閉會。

慣盜飼鴨

新營郡白河庄蓮潭一六四號石眉。年十七。慣於溪谷間。盜捉鳥鴨販賣。自昨年十一月。在八掌溪畔。盜嘉義市劉眉二二二銷寄所飼鴨。前後數回。凡百餘隻。價值四五十圓。二十一日嘉義署中畑吳兩刑事。將犯人逮捕。留置究訊中。

關西放火　嫌疑犯人　基隆署嚴究

基隆水上署半野。吳兩刑事。最近由沖繩航路湖南丸。逮捕拐帶。犯人菊地峰三郎。年三十七。既如前報。其後查究。關聯于大厚。是故本署三浦刑事主任。親自查問。且由同人所持品中。發見有種々書類。其中有類。似於六昨年臨鹽勳關西地方。對縱案嘲笑的投書。卽放火犯人之一手跡。一同雀躍。若果屬關西之放火犯。則基隆署

時評

○

本邦所謂人權者。得遵法律大家。且起問難。朝野兩黨。無不案振。本島地方。可漫然惹起乎。

○

臺灣朝野。法曹界。近來共深注意。當路尤戒飭下僚。會無幾時。新營郡下。將有惹起之者。

○

憲法學之人。必先守法。以爲民模。如或自乖自舞。自起自越。縱身登壇限。亦不能免。內地近事。昭々可鑑也。

○

今也。國會有其問題。憲政有其常局。承認新式深耕犁。而被害者久保之作。業行爲。乃大了解。取下告訴。此次事件。或因一部反對者。爲完全正當之業務。郡當局數次呼劉氏。而不出頭。其他不知逃往何處。至二十一日。始悉在臺北。是日以後原警部補拘引狀。拘去劉氏。現正務行調查。其他劉明濤。劉字順。劉文庫四名。于十二日午前八時釋放。

拐帶犯未發見　檢其貨物

既報員林驛作業所書記蕭鋪錄。拐帶運送店之引換證付運金三百餘圓逃走以來。雖由其家族或作業所竝當局向各地搜尋中。依然杳如黃鶴。作業所自該書記逃亡後。大爲狼狽。恐蕭書記拐帶三百餘現金以外。尚有對各運送店寄托中之貨物之假引渡或其他不正行爲。自去十八日起。對其書記所處理關係帳簿及積庫中貨物。爲之愼查照合。就檢查之分。卽無發見不正云。

詩壇

感賦　古閩　王良有

蘇張無計說從衡。向成依然主强兵。秦晉未容肥滑虢。楚原有輔事恫相望一水。號以原有輔事恫相望一水。同文契。還期一雁此日誠。出師。其人股肱及手。徐步隨。紫氣何時光白下。安排竹馬出郊迎。

題無錫芝瑛女史軼事後　延陵世胄炳桐城。林下風傳死後名。軼聚尚才誰與匹。翠花妙格未當聞。登臨北苑留佳話。稱得南湖慰此生。猶有俠腸播巾幗。不堪萬柳悼流鶯。

小說

櫻花夢（下卷）　第十三回　良能暮夜訪親

今夜晴宿敏祖山癩謂慕周曰。祠中。再作一夕清談。以祓此日餘歡。慕周亦興談得暢快。竟欲哈山癩妙論。立爲應允。遂前後催馬入城。謝才在城頭望見。下城相接。隨到祖祠。山癩謂謝才曰。佳可令厨人備席且邀張參議來陪。謝才自去指。張參議來陪。分踞胡床小休。須臾張參議到。家俱相識。就坐。張參議告山癩曰。本日下午。遺務邀到清源山報告之事。不知我意如何解決。山癩曰。我亦未便個人主張。明日開一參議會。從多數意以決定言之。司閘者入告。謂有人自清源鄉挑簪來。欲見總辦面皇。

感冒安全療法

服イマヅミン最佳

感冒發寒病之源。稍有不愼。則成重患。服藥無劑。風邪難癒。只抑一時之熱。爲最危險。以安全有名之今津法理學所製劑。不但含解熱劑之イマヅミン服之爲最。本劑無副作用。凡熱。頭痛。咳。卽可痊